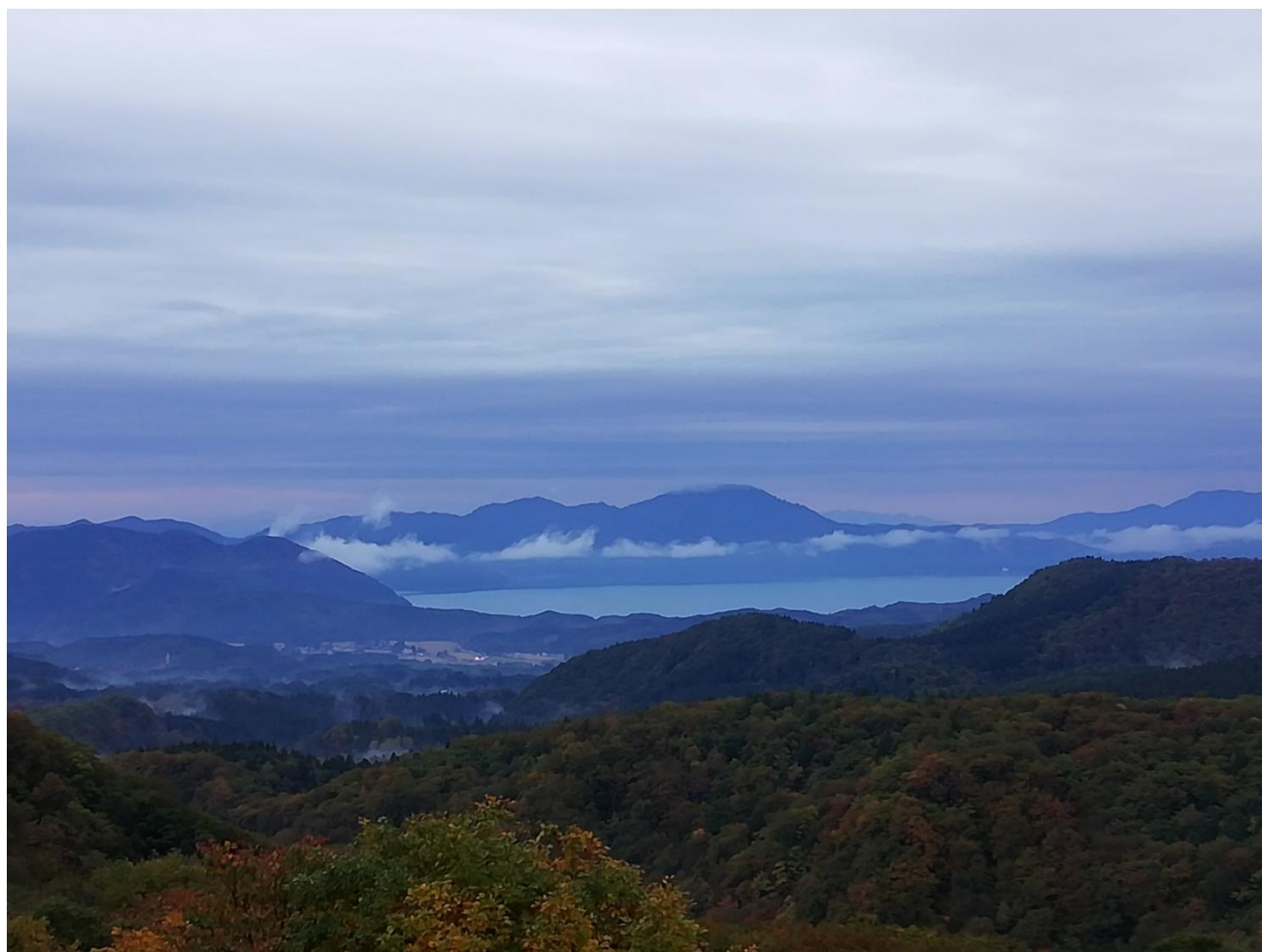


# 仙北・田沢研修旅行報告書



2023年2月

秋田大学大学院教育学研究科  
教職実践専攻（教職大学院）

## 目 次

2022年度研修旅行日程等	1
参加者	2
西明寺小学校の様子	3
西明寺小学校の授業の様子	4
西明寺小学校の児童の様子	5
仙北市の学校給食	6
仙北市教育長講話	7
西明寺小学校・中学校の学校経営	8
質疑及び協議	10
ホテルグランド天空	11
アルパこまくさ	13
田沢湖発電水路	14
御座石	15
田沢湖クニマス未来館	16
たつこ像	17
平安時代の十和田湖噴火	18
研修旅行感想	20
教職大学院「学校危機管理の現状と課題」における危機管理に関する指導案、研修案	24



## 2022年度研修旅行日程等

事前ビデオ視聴

『「想定外」を生き抜く力』片田敏孝（群馬大学：当時）

『ぼくたちわたしたちが考える復興 夢をのせて－宮城県石巻市立雄勝小学校震災2年目の実践』徳水博志

16:20 秋田大学着

12月23日（金） 「学校危機管理の現状と課題」において危機管理に関する指導案、研修案の検討

1月 6日（金） 「学校危機管理の現状と課題」において危機管理に関する指導案、研修案の発表

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

チーム単位で以下のテーマに取り組む。

①事前対応：防災・安全教育（起こらないようにする、又は起こっても深刻なものにならないようにするため）

②緊急時対応：災害発生時、避難所（深刻なものが起こったときに、どう対応するか）

③事後対応：心のケア、学習支援など

④復旧対応：復興の地域づくりプラン作成、安全安心な学校づくりプラン等

①②は指導が災害等の発生前に行われると想定する。③④は指導が災害等の発生後に行われると想定する。各チームの現職院生は教職員向け校内研修プログラム（指導案）を考える。自分の校種、勤務校を想定する。各チームの学卒院生は児童生徒向け授業・訓練プログラム（指導案）を考える。自分の実習校、校種、教科等、学年等を想定する。授業の指導案の形式になったものを作成する。

災害の内容の想定は各人に任せる（危険動物でも自然災害でも交通事故でもいじめでも体罰でもなんでもよいが、死者・自殺者が出るような比較的深刻度の大きな事故・事件を想定する）

10月14日（金）

8:30 大学出発

10:20 西明寺小学校到着

10:40～12:20

公開授業及び通常授業見学

12:20～13:00

昼食－給食

13:00～13:45

仙北市教育長講話

14:00～14:30

西明寺小学校・中学校校長講話

14:40～15:40

質疑・協議

16:20

ホテルグランド天空

10月15日（土）

9:00 ホテル発

9:05 アルパこまくさ

10:40 田沢湖発電水路

11:05 御座石

11:55 昼食・欧風食堂 kaede

13:10 クニマス未来館

14:20 たつこ像

## 参 加 者

### 学校マネジメントコース

#### 現職院生 1 年次

飯塚正純  
石井志徳  
菊池高之  
小林正明  
嵯峨静人  
佐々木公  
菅原 涉  
鈴木貴子  
高橋華子  
渡部和朝

### カリキュラム・授業開発コース

#### 学卒院生 1 年次

亀山雄矢  
須藤よしの  
武石早穂

#### 学卒院生 2 年次

浅野匡平  
阿部倫己  
佐々木健真

### 発達教育・特別支援教育コース

#### 学卒院生 1 年次

佐藤茅奈美  
山田有輝也

#### 学卒院生 2 年次

平塚達也

### 秋田県総合教育センター

#### 指導主事

田口峰子（2 日目のみ）

### 付添教員

近江谷正幸  
鎌田 信  
栗林 守  
佐藤修司  
田仲誠祐

林信太郎

「学校危機管理の現状と課題」のみの参加者

発達教育・特別支援教育コース

学卒院生 2 年次

嶋崎友貴



※本研修旅行は『NITS（教職員支援機構）・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業』を活用して実施した、ふるさと教育実地研修「地域の教育長が語る『我が町の教育』2022」の成果の一部です。

教職員支援機構及び仙北市教育委員会、西明寺小学校・中学校の皆様にも、深くお礼を申し上げます。

## 西明寺小学校の様子

### 1 子どもたちの様子

6年生理科の研究授業を参観した。話を聞く姿勢や堂々とした発表を見て、普段の授業の積み重ねがここにあると感じた。グループ学習では、自分の足を使って見つけてきた写真をもとに話し合いが行われ、自然な姿で対話する場面があり、仙北市の重点である「言語活動の充実」の具現化が図られていることに感心した。

返事や話をする人を見ることなど、学習のきまりが身に付いており、話しぶりや笑顔からは、とても素直に成長している様子がうかがえた。



### 2 学習環境と教職員

各教室には電子黒板が設置され、子ども一人一人がタブレットを使って、意見交換をしていた。タブレットを用いて作成した個の情報が、グループで共有され、更に電子黒板を通じてクラス全体で共有、対話がなされていた。まさに必要感のある、タブレットを使うことで教育効果を高める実践を行っていた。そして、当日休んだ子どもとオンラインで結び、対話をしており、子ども一人一人にきめ細かな対応をしていた。先生方の授業を参観したが、どの授業も同じ方向を向き、周到に準備された授業であった。先生方のやる気をひしひしと感じた。



### 3 校舎の様子

平成16年に建てられた校舎ということだが、まだ新しく美しい校舎であり、これまで丁寧に使われてきたことがうかがえる。木材がふんだんに使われており、学校全体が温かみのある雰囲気になっている。教室の天井には大きな梁が見える構造に、廊下の天井も柱の組み方が見える構造になっており、空間の広さを感じられるようになっている。また梁や柱の組み方が見えることによって、建築やものづくりにも興味をもてるような校舎になっているようだ。

教室には出入口戸がなく、壁にあたる部分は格子戸のように木が組まれており、解放感のあるつくりになっている。掲示スペースが狭まってしまうが、少人数であることをいかして、教室内部だけでなく廊下や共同スペースにも児童の作品が多く掲示されていた。

【嵯峨静人・佐々木公】



## 西明寺小学校の授業の様子

### 1 ICT を活用した授業提示（6年理科）



「大地のつくりと変化」の単元の11/13時間目の授業提示であった。まだ大きな災害を経験したことがない児童たちであるが、各自がChromebookで撮影した自宅周辺の画像を活用し、単元の既習事項と関連付けて地震が及ぼす影響を考える学習は、災害に対する当事者意識や防災意識を育む上で大変有意義であると感じた。

グループごとの意見交換ではJamboardを使用し、気付いたことを付箋に書き記して共有したり、画像上で注目すべき箇所に直感的に印を付けたりしながら、活発なやり取りがなされていた。また、JamboardはZoom上で情報共有ができることから、オンラインで参加している児童も学校にいる児童と同様に意見交換に参加することができ、オンラインでの授業の充実を考えていく上で非常に参考になった。



T2の教育専門監と連携を図りながら、随所で

ICTが効果的に用いられていたが、前時までの学習のポイントが複数の掲示物にまとめられ、児童をその周辺に集めて学習を振り返ったり、ノートを活用したりするなど、アナログの良さが生かされる場面も多かった。

教師の言葉に対する返事や応答、発言者への即時注目などの授業規律が浸透し、児童同士がさりげなく互いに気を配る姿も多く見られ、授業を通して学級経営がしっかりとなされていることがうかがわれた。



### 2 フリー参観

各学年のほとんどの授業において電子黒板の活用やチームティーチングの導入など、指導上の工夫や連携がなされていた。児童同士の練り合いや協力し合う場面が効果的に取り入れられている授業が多く、4校時の後半になっても、低学年の児童たちが教師の問いかけに元気に応答したり、隣の児童と意欲的に考えを述べ合ったりする姿が印象的だった。

【飯塚正純・石井志徳】

## 西明寺小学校の児童の様子

3時間目の授業が始まると、気持ちを切り替えて学習活動に臨む様子が印象的であった。担任の教師との信頼関係や友達と協働する姿勢など、安心・安全な人間関係の中で学びに向かう力が見についていることを感じた。特に児童同士のコミュニケーションが自然であり、ノンバーバルな方法に頼りすぎず、言葉を使ったやり取りをきちんと行っていた。これらのことは学校の重点項目である「人間関係づくりの充実」が具現化された姿であった。

4時間目の授業参観では、友達や担任の教師の話をよく聴く姿勢をもっている児童の姿を見ることができた。教科の特性や発達段階に応じながらペアやグループの活動が取り入れられていることで、児童の爽やかな笑顔が見られ、お互いの意見を交流し合いながら学習活動に取り組んでいた。

休み時間に廊下をすれ違う際には礼儀正しく挨拶ができていた。気持ちの良い挨拶からは、学校の一員であるという高い意識を感じ取ることができた。

【小林正明・菊池高之】



## 仙北市の学校給食

初日のお昼には、西明寺小にて、仙北市の学校給食をいただいた。仙北市の給食は、地産地消を心がけており、食材とメニューも工夫されていた。



【栄養教諭の千田先生による説明】

もたちは幸せである。

我々秋田大学大学院一同も、仙北市の子どもたちと同様に、地域の歴史や伝統の奥深さを感じながら、ロマン溢れる給食を美味しくいただいた。



【御狩場焼をメインとする地産地消メニュー】



【本日のメニューについて】

今回のメニューの中でも、仙北市角館に伝わる郷土料理「御狩場焼（おかりばやき）」がとても印象的だった。今から300年以上前の佐竹北家の時代から伝わる郷土料理で狩りをしたその場で、獲った鴨やキジなどをさばいて、山椒味噌をつけて焼いて食べていたところから現代に伝わる料理だという。

地元の食材や味噌を使い、栄養のバランスのとれた美味しいメニューが食べられる仙北市の子ど



【笑顔で給食をいただく院生】

このような貴重な機会を設定してくださった仙北市教育委員会、仙北市学校給食センター、そして、西明寺小・中の関係者の皆様にご心より感謝したい。

【菅原 渉】



## 仙北市教育長講話

仙北市立西明寺小学校にて「地域の教育長が語る『我が町の教育』2022」と題し、研修会が実施された。

本研修では、最初に教育次長と研究所長による仙北市の教育の説明があり、学校教育目標「ふるさとを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体を持ち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」の実現を目指しての特徴的な取組が紹介された。続いて須田喬教育長による講話となった。



はじめに2つの重点目標についての説明があった。1つ目は「骨太の人間の育成」である。「少子高齢化の中では、知・徳・体のバランスの取れた骨太の人間をつくり、一人ひとりの幹を太くしなければ、高齢人口が増える市を支えることができない」との言葉には危機感が表れていた。職員には「仙北市の未来は、骨太の人間の育成にかかっていることをいつも頭に入れて仕事をしてほしい」と常々話しており、強いリーダーシップが感じられた。2つ目は「仙北市プライドの醸成」である。少子化で社会減になることへ歯止めを掛けるために、ふるさとを舞台にしたキャリア教育「仙北ヤマメ・サクラマスプロジェクト」の実施を予定しており、大館市のキャリア教育の取組を参考にしながら進めるとのことである。教育長が語った「ヤマメのように地元に残るもよし、サクラマスのように一度外に出てから戻るのでよし、とにかく将来地元に残

ってほしい。」との願いは、先生方はもちろん、地域や保護者、そして子どもたちにも伝わっていただろうと感じた。

次に、「目指す教師像」に関して、自身の経験を交えながら「自分の子ども時代に信頼された先生は、徹底的に向き合ってくれた先生であった。だから、徹底的に子どもと向き合って信頼関係を構築し、子どもの心に灯をともし教師になってほしい」との熱い思いが語られた。さらに、教育長が大切に考えている「授業でこそ人間教育を」についても具体的な説明があり、秋田県が進めている探究型の授業や共同的な学習を通して「失敗しても折れないたくましさ」「夢中になって注ぎ込める力」「共に学ぶ力」「多様性を認める力」等々が身に付くように指導してほしいということであった。改めて、授業が学校教育の要であることを強く認識したところである。



最後は、今年度の仙北市の共通テーマ「言語活動の充実」に至るまでの経緯であった。その中で教育長が「学級が安心・安全でなければ言語活動の充実は図れない。だから、スクールカーストがあったらぶっ壊してほしい。」と我々に訴えるように話していたことがこの研修会で最も印象に残っている。「学校経営で最も大切なのは学級づくり」ということであろう。

【渡部和朝・亀山雄矢】

## 西明寺小学校・中学校の学校経営

西明寺小学校 学校経営について

仙北市教育委員会から教育委員会の目標や方針や学校説明を聞く機会を得た。仙北市長のマニフェスト、さらに教育長の明確なビジョンのもと、仙北市の基本理念は「健やかに美しく輝くまち」、仙北市の教育目標「ふるさとを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体を持ち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども～「骨太の人間の育成」「仙北市プライドの醸成」～」が示された。

仙北市の教育の重点は①ふるさと学習の一層の充実 ②思いやりの心と健やかな体を育み、命を大切に教育の推進 ③確かな学力の向上」であり、この目標の達成に向けて 様々な取り組みが行われており、教育委員会の「現場主義」の方針が明確に打ち出されていた。

「特別支援教育支援員36名の配置をはじめ、部活動支援員6名、総合学習アドバイザー2名などの配置により、学校現場に対する細やかなサポート」「児童生徒用タブレット(クロムブック)、電子黒板の整備等学校におけるICT環境の整備。電子黒板は全教室配置され、電子教科書の活用、一人一端末の配置により、休校中の自宅持ち帰りや、リモートによる授業参加等の活用」「ドローン推進事業により、全部の学校にドローンを配置し、プログラミング教育の一環として活用」について詳しくご説明いただいた。これらの取組の他にも、「キャリア教育・ふるさと学習支援事業」「遠距離児童生徒通学費補助事業」「Get Back推進」「奨学金補助事業」「学校教育バックアップ事業」等の多彩な取組が紹介されたが、いずれも学校現場、子どもたちを第一に考えた「徹底した現場主義」が明確に伝わってきた。

仙北市では「問いを発する子ども育成」を市全体の共通研究テーマとして設定し、各校の研究主任を対象に研修を深め、思考を広げ、深めること

のできる言語活動の工夫や言語活動の充実の支えとなる安心安全な環境づくりをめざして、取り組んでいるとのことだった。各校の校内研究を推進する研究主任とともに設定した研究テーマは、各校の実態に合わせた形で校内研究に反映されるシステムとなっているのが特徴的だった。

西明寺小学校と西明寺中学校の両校の校長先生から学校経営方針や具体的な実践の紹介をいただいた。

西明寺小学校では、「共に学び 自らを高める「くりっこ」をめざして～「読み解く学び」の展開と「自信を深めるふり返り」の充実～」を研究主題として、様々な取組がなされていた。授業参観では、子どもの学びに向き合い、見取る教師や、言葉に耳を傾けじっくり聴く子どもの姿があった。子どもたちが互いの話を聞き合い、堂々と自分の言葉で考えを語る姿に、その成果が表れていると感じた。ICTの活用も積極的に行われていた。

校内では、子どもたちがふるさとの良さを感じることができるような掲示や、地域を題材とした学びの機会の工夫がなされていた。今回の実地研究を通して、「ふるさとを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体を持ち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」を育てるための具体的な事業内容と学校現場との連携、学校現場での取組について学ぶ機会となった。



仙北市においても、「少子化」が課題としてあげられた。この課題を解決するためにも、地域が目標を共通理解し、全体で子どもを育てていこうとする前向きな姿勢が示されていた。

学校や地域、教育行政が協力し、地域の活性化のために、一体となって取り組む姿勢から多くのヒントを得ることができた。仙北市教育委員会の事業や取組等を参考としながら、より一層地域教育行政について学び続けていきたい。

【鈴木貴子】



#### 西明寺中学校 学校経営について

今回は小学校の授業参観だったが、中学校の学校経営についても御説明いただいた。

西明寺中学校の学校教育目標は「高い志をもち、共に学び、心豊かで、たくましく生きる ～未来の地域や社会を支える～」であり、小学校と同様、仙北市の教育目標とのつながりが強く感じられるものであった。また、教育長講話では、仙北市の今年度の共通研究テーマの実現に向けて言語活動の充実を図る大前提として「安心で安全な環境づくり」（どんな発言も許される環境づくり）を推進していくというお話があったが、西明寺中学校の実践の重点や研究の重点事項には、「認め合う関係づくり」、「自身と関係性の基盤づくり」が盛り込ま

れていた。その具現化に向けて、毎月アンケートを実施してPDC Aサイクルを年に複数回まわしているということであり、きめ細かい対応がなされていると感じた。

実際の中学生の姿を見ることはできなかったが、本日の小6の子どもたちが規律の保たれた状態でお互いの意見を述べ合う姿から、西明寺小の卒業生で構成される中学校の様子を思い浮かべることができた。私の所属校の高等学校では、生徒、職員ともに「身に付けた力」として「話し合う力」を挙げているが、全校生徒の約3分の1が仙北市内の中学校出身者である。今後、市の共通教育研究テーマで教育活動が進められることで、高校入学前までに「話し合う力」の素地に一層磨きがかかると思うと、身の引き締まる思いである。

【高橋華子】



## 質疑及び協議

小学校6年生の理科「大地のつくりと変化」の単元で授業が行われた。本時の問題は「自分たちの身の回りではどのような災害が起こるのだろうか」というものであった。授業の流れは以下の通りである。問題に対する予想をたて、発表する。その後、自分の住む地域や学校の近くの写真から、地震によって起こり得る災害についてグループで話し合い、それを発表する。そして本時のまとめを行う。というものであった。この授業展開のさまざまな場面について質疑・協議が行われた。特に重点的に協議がなされた場面は「自分の住む地域や学校の近くの写真を用いて、起こり得る災害を考える」場面である。



多くの協議班で話されていたのは、児童が登下校時に通学路で撮った写真を用いることで、自分の毎日通る道について考え、児童が自分事として捉えられるということである。非常に必要感を感じられる授業になっていた点で、多くの班が評価していた。

また、提示された協議の視点は「児童の思考がICTによって活性化されていたか」というものであった。各班で協議をした後に全体で発表を行った。すると、「ICTを使わなくてもよかったのではないか」という場面があったことが報告された。その場面とは、児童がグループで話し合う場面である。ICTを用いているから思考が活性化されたよ

うには感じられないという意見が多く、むしろICTではなくてホワイトボードを使ったり紙を使ったりして手を動かしながら話し合ったほうが思考は活性化されるのではないかという結論が出た。



全体としてまとまった考えは、ICTの使いどころを考えることが大切であるということだった。ICTの活用について議論をすると必ずこの結論にたどり着くが、「この場面は使いどころで、この場面ではICTは向いていない」といった活用場面の類型化はまだ完成していないのかもしれない。一つ一つの事例を検討し、体系的にまとめていけたらより有意義な学習活動の場面を創出できるのではないかと考えた。

【須藤よしの】



## ホテルグランド天空

西明寺小学校での研修を終え、私たちは宿泊施設「ホテルグランド天空」へと向かいました。田沢湖高原に建っているこのホテルは、周囲をブナ林に囲まれ、大自然の中にいるかのような景色を一望できます。館内に展示してある趣のある作品なども魅力的でした。山中のロッジを思わせるロビーや広々とした和室は温かな雰囲気があり、一日目の終わりにゆっくりと肩の力を抜くことができました。



【田沢湖高原の景色】

天空の温泉は、硫黄の香りと、天然の温泉ならではの滑らかな肌触りがありました。時間を忘れるほど心地よい入浴を体験でき、心も体もほぐれました。特に露天風呂では、高原の澄んだ風を感じ、癒やされました。



宴会場では、素材の味を生かした様々な料理を楽しむことができました。昨今の情勢では、会食することが難しく、残念に思っていたのですが、今回の旅行ではこのような素敵な時間を過ごすことができ、良い思い出となりました。地ビール「天空」などの地元の名品もいただきつつ、院生の皆さん、先生方との親交を深めました。



【夕食の様子】

私は朝風呂にも行き、朝日と霧が輝く神秘的な雰囲気を楽しむことができました。朝食は、ガラス張りの広々とした食堂で、豊かな自然を眺めながらいただき、二日目の爽やかなスタートを切りました。



【朝食の様子】

【武石早穂】



## アルパこまくさ

平成 18 年 6 月 1 日に田沢湖高原の中核施設として、新しく生まれ変わった。

自然ふれあい温泉館、秋田駒ヶ岳情報センター、駒ヶ岳火山防災ステーションの施設から成りたっている。旧駒草荘跡地に設立され、広さ 11.3Ha の敷地に、山小屋風の木造平屋造りの建物、散策路、ミニパーク、240 台駐車可能な駐車場がある。登山時は、バスに乗り換えるとスムーズに行動することが出来るのである。

林先生の話によると、アルパこまくさ、いつ噴火が起こるか分からなくなっているようだ。そのため、近々噴火する可能性が低くはないようだ。そして、52 年前に噴火した際に屋台などで人々は賑わったようだ。そのような状況は珍しく、非常に安心できる火山であるようだ。加えて、要注意の火山となっているため登山時にはヘルメットを忘れずに持っていくべきとのことだった。また、生ハムと火山の関係もあるようだ。詳しくは、林先生へ。

〈アルパこまくさの由来〉

「山という意味の『アルペン』と、温泉の『スパ』の造語。可憐なこまくさや高山植物の数々が咲き誇る駒ヶ岳の豊かな自然がいつまでも身近に感じることが出来る施設であって欲しい」という願いが込められている。

〈アルパこまくさの火山クイズ〉

Q 1 災害時のダイヤル伝言番号は？

a. 181    b. 575    c. 171

Q 2 日本の火山はいくつあるか？

a. 111    b. 86    c. 379



Q3 秋田駒ヶ岳の噴火の種類は？

- a. ストロンボリ式噴火    b. ブルカノ式噴火  
c. プリニー式噴火

Q 4 秋田駒ヶ岳の火山のかたちは？

- a. 2 重式成層火山    b. ドーム状火山  
c. たて上火山    (正解は現地で)

【佐藤茅奈美】



## 田沢湖発電水路

田沢湖発電所は昭和15年に開発されました。当時、不足する電力を補うために上流部の温泉を水源とする近くの川から強い酸性の水を田沢湖に引き込んだそうです。その結果、大量の酸性水が田沢湖に流れ込んでしまいました。多くの魚は酸性の水に適応できません。クニマスも適応できず、絶滅してしまいました。現在、田沢湖には酸性水に適応できる魚「ウグイ」が生息しています。



今回の研修旅行では発電所の近くの記念碑を訪問しました。当日は雨が降りしきり中での訪問で、どこか田沢湖の水質汚染を引き起こした「黒歴史」を私たちに教えてくれるようでした。

実際に行ってみると、クニマスを滅ぼすといった大事件を引き起こした発電所の記念碑は、草が生い茂った広場にひっそりとたたずんでいました。



発電所が建てられてから80年以上たった今、この歴史は忘れられつつあります。私も今回の研修旅行でこの出来事を初めて知ることができました。

田沢湖周辺では、田沢湖のきれいな海岸や「たつ子姫像」が有名です。しかし、発電所の記念碑も田沢湖の歴史を振り返る上で重要な建築物ではないでしょうか。

この出来事が昔あったことを風化させてしまうのではなく、今以上に田沢湖が自然豊かな場所となり、将来クニマスが、田沢湖に戻ってくる日を願っています。また、学校現場でもこのような歴史的背景について取り扱う授業なども行っていきたいです。



【山田有輝也】



## 御座石

御座石は、田沢湖の湖畔にある莫塵を敷いたような平坦な岩場です。「御座」という名前にもある通り、昔、秋田藩主が田沢湖を遊覧する際に、腰をかけて休んだことに由来しています。



道路を挟んで向かいにある階段を上ると、湖神である「たつこ姫」を祭る神社があります。たつこ姫伝説では、美しさを永遠のものにしたいと願ったことから、美貌成就の他、開運厄除け、勝利成功などの神社として、多くの方が訪れています。



当日は雨が降っており、実際に腰かけると水浸しになってしまうため、座っている人は一人もいませんでしたが、そこから見る眺めは素晴らしく、秋田藩主が腰をかけて休もうと考えたことも頷けるような場所でした。

田沢湖を回っている遊覧船が近づいてきた際には、波が押し寄せてくるため注意する必要がありますが、遊覧船に乗っている方と手を振り合い、コミュニケーションをとることも楽しみの一つとなりました。



田沢湖の観光ガイドからダウンロード

【浅野匡平】



## 田沢湖クニマス未来館

田沢湖クニマス未来館は「過去は未来への扉」というテーマのもと、かつて田沢湖に生息していたクニマスについての歴史や生態について豊富な資料や実際のクニマスの観察を通して知ることができた。



クニマスとは世界で田沢湖固有のサケ科サケ属の魚で、湖で一を送ることから同じサケ属のヒメマスと似ている。クニマスはヒメマスとの違いは、クニマスは湖の深い湖底で産卵をするという特徴があり、サケ属の中でも変わった特性がある。かつてクニマスは周辺の人々の漁の対象となり、人と共存して生息していたが、当時周辺では農業用水の確保に苦しんでおり、近くを流れる玉川の水も酸性であり引けずに困っていた。加えて1930年代初め、東北地方の大凶作による米の増産と電力増加に向け、田沢湖で玉川の水を希釈して使う方法がとられた。このことから田沢湖の湖水は酸性となりクニマスが絶滅し、今ではウグイだけが泳ぐ様子が見られる。田沢湖の湖水は中和処理がされ、多少は改善されているが、未だにクニマスが住めるような環境の回復には至っていない。そんな中でも絶滅したと思われていたクニマスが、山梨県の西湖で発見された。1935年に田沢湖から移植されたクニマスの子孫だったという。



ここでの研修を通して、これからの時代を生きていく自分たちの責任と歴史を後世に伝えていくことの大切さに気付いた。私たちはこれまで産業の発展の代償として自然を犠牲にしてきたが、クニマスがその一例である。これからはクニマスが田沢湖に住むことができるように自分たちには何ができるのかを考え、それを行動に移すことが大切である。またこのことを、学校教育を通してこれからの時代を支えていく子どもたちに伝え、ふるさと秋田の豊かな自然を守っていく態度を養っていくことも私たちに与えられた使命であると感じた。

【阿部倫己】



## たつこ像

日本一の深さを誇る湖である田沢湖には「たつこ姫伝説」という伝説がある。この伝説は、若さと美しさを永遠のものにしたいと願った辰子という娘がお告げに導かれて泉の水を飲んだところ、いつしか龍の姿へと変化し、その後、田沢湖の底にその身を沈めて湖の主となって暮らすようになったというものである。

この伝説から建てられた像が田沢湖畔に点在するのだが、特に湖の西岸にある金色のたつこ像は田沢湖のシンボルとなっており、有名な観光スポットとして知られている。このブロンズ像が金箔漆塗りなのは、酸性の強い湖水による腐食を防止するためであるらしい。

私は、たつこ姫伝説にまつわる像といえばこの金色のたつこ像というイメージが強かったが、今回の巡検で像が複数体存在することを知った。



田沢湖の北岸にある御座石神社では湖の主であるたつこ姫を祀っており、境内で「たつ子姫像」を見つけることができた。田沢湖畔に点在する他の像が上半身・下半身ともに人型の姿であるのに対し、御座石神社の境内にある像は下半身が蛇の姿をしていることが特徴的であった。鱗に覆われた姿は伝説の中で変化したという龍のようにも人魚のようにも見える神秘的なデザインであった。



田沢湖発電所の近くでは「姫観音像」を見つけた。この像は、かつて平野の開拓や水力発電に利用するために玉川の強酸性の水を田沢湖へ導入したことによって死滅した魚とたつこ姫の慰霊のために建立された像であった。



この他にも、金色のたつこ像と湖を挟んでちょうど対岸に位置する「辰子観音像」もあり、田沢湖畔にあるたつこ姫伝説にまつわる像は全部で4体である。田沢湖を一周し、湖を囲むように存在するすべての像を探して、その表情や姿の違いに注目してみることも面白いだろう。

【佐々木健真】



## 平安時代の十和田湖噴火

本年度の課題実地研究の舞台である秋田県仙北市には、日本一深い湖である田沢湖が存在している。研修2日目はその田沢湖の歴史と魅力を満喫する日程となっていた。田沢湖発電水路では、当時の時代背景を踏まえて、発電所としての活用と玉川の水を引き込んだことによる影響を学んだ。また、クニマス未来館では、田沢湖の水質が変わったことによる生態系の変化や、クニマスの絶滅と再発見の歴史を学んだ。さらに、田沢湖周辺の御座石や御座石神社、かの有名なたつこ像を拝見することができた。このように、多くの要素が複雑に絡み合っ、田沢湖の歴史を形成し、現在の姿に至っていることが分かった。

さて、秋田県の代表的な湖はもう1つある。それは、秋田県と青森県の県境にある十和田湖である。こちらの十和田湖も、研修で学んだ田沢湖と同じように深い歴史をもつ湖である。研修の中で実際に十和田湖を訪れることは叶わなかったが、秋田県の湖つながりとして、本稿では十和田湖に関する歴史をまとめていきたい。

まずは、十和田湖は火山によってつくられた湖であることに注目したい。具体的な成り立ちを見ていくと、最初に元々あった火山が噴火したことによって、地中のマグマ溜まりからマグマが抜けてしまった。次に、マグマが抜けて空洞になったことで、陥没を起こした。そして、陥没によってできた窪地がカルデラとなり、カルデラに水が溜まった。こうしてできたカルデラ湖が十和田湖である。実際に、十和田湖の湖底を探すと軽石が見つかる。この軽石は火山が大爆発をした証拠となっている。

そして、十和田湖の噴火の中で注目したいのが、今から約1100年前の915年に発生したと推測される大噴火だ。平安時代に起こったこの噴火は、日本国内で過去2000年間に発生した火山噴火の中でも、最大規模とされている。どのくらい

の規模かということ、約57億トンのマグマが噴出したとされている。また、噴出したマグマによって噴煙が起き、上空にのぼって軽石や火山灰となって降ってきたとのことだ。その後、噴出した高温の火山灰・軽石・火山岩などが一団となって高速度で流れ下る現象である火砕流が発生し、十和田湖から鹿角市へ向かって流れ出し、当時の人々に大きな被害を与えたとされている。

簡単ではあるが、以上が十和田湖の噴火に関する歴史である。研修で学んだ田沢湖と同様に、十和田湖も歴史が積み重なって現在の姿に至っていた。本稿で触れた田沢湖と十和田湖は、秋田県生まれの私にとって身近な存在のつもりだったが、改めて調べてみると、全く知らないことだらけであった。教育現場に出た際は、今回学んだふるさとの魅力を、授業に活用していきたいと感じた。また、田沢湖や十和田湖以外にも、秋田には魅力的なふるさと資源がたくさんあるので、今回の研修で学んだように、背景に隠された歴史に目を向けてみたいと感じた。

【平塚達也】



秋田県公式観光サイトHPからダウンロード



## 研修旅行感想

### 【学部卒院生】

○1 日目は西明寺小学校を訪問して、仙西市の教育目標や教育活動を学ぶことができた。特に、参観した授業を基にした協議では、ICT 機器の活用を子どもの学びとつなげるためにはどうしたらよいか考えることができ、非常に有意義だった。

2 日目は駒ヶ岳や田沢湖の実態や歴史を深く学ぶことができた。あまり訪れたことが多い土地ではなかったのに、多くの魅力を感じることで、また来たいと思った。

○教職大学院で学ぶ中で様々な学校の教育目標や理念を学ぶ機会がありましたが、市教委の取り組みのお話を聞くのは今回が初めてだったと思います。仙北市が学校教育目標の実現に向けて「骨太の人間の育成」と「仙北市プライドの醸成」を重点に掲げていて、生きる力の育成やふるさと教育に力を入れているのだなと感じました。仙北市の「ヤマメ・サクラマスプロジェクト」は社会問題に直接働きかけられることができていると感じていて、こうした取り組みをもっと広められたら良いのではないかと考えています。

○2 日間の研修旅行を通じて、大切にしたい点は主に2点ある。1 点目は子どもの学びを促進する働きかけについてである。ICT 活用や防災教育、ふるさと教育など様々な実践が行われているが、あくまで「子どもの主体性」あつての学びである。仙北市教育長の話からもあつたようにそのために、秋田県の強みである授業を作っていくのだと感じた。2 点目は人とのつながりについてである。教育委員会、地域など学校を取り巻く環境への働きかけがとても大切だと感じる研修旅行だった。

○1 日目は西明寺での授業見学や講話を通して、仙北市の教育に対する思いや熱意、学習環境の良さを体感することができた。将来的には仙北市に配属される可能性もあるので、今回得た知見や経験をものにしていきたい。2 日目は田沢湖につい

てのフィールドワークを通して、普段観光地として行っていた場所を様々な視点で見ることができた。今後教材として使うことも視野に、得られた情報や経験を活かしていきたい。

○日程 1 日目では、学校や地域で力を入れている教育の取組を知り、成果と課題について学ぶことができた。参観授業の協議では発見や疑問点を話し合い、多くのことを吸収できた有意義な時間になったと感じている。日程 2 日目には、林先生の解説を聞きながら田沢湖周辺の様々な施設や名所を巡ることで、田沢湖の成り立ちや生態系の変化と歴史などについて非常に楽しく学ぶことができた。私は昨年度に引き続き 2 回目の研修旅行の参加であったが、新たな地で今年度も多くのことを学び、深めることができたとても充実した 2 日間であった。

○一泊二日で田沢湖の自然や仙北市の教育に触れることが出来た。研修でないと仙北市の教育に関して学ぶことができないため非常に良い機会となった。以前は、沢山の木々がある御座石、田沢湖などをなかなか見る機会がなかった。それにより、田沢湖には、素敵なものが沢山あると認識することができて良かったと感じている。実際に足を運ぶことで新たな発見などができて良かった。また、クニマス未来館でクニマスの保護などを行っているということで非常に大切なことだと感じた。非常に素敵な 2 日間であった。

○2 日間を通じて色々な視点や考え方に触れることが出来た。自分の知らないことを学ぶ機会というものは、知識を取り入れるよりも自分と違う立場からの見方を取り入れることに楽しさがあるなと思った。自分の視点も大切にしながらこれからも多くの見方、考え方を受け入れられるようにりたいと思える時間であった。

○ふるさとを愛する心とは、どんな心なのか、説明することができませんでしたが、ふるさとを好

きになること以外に、どのような行動が必要か、今回の課題実地研究で少し知ることができました。田沢湖に玉川が流入して、クニマスが全滅してしまった事実だけでなく、そこで生きていた人々の思いや、今田沢湖にクニマスを戻そうと携わっている人々の思いを想像することや、自分がどこにいてもふるさとを思い出し、その良さや素晴らしさを語れるような知識を自分から調べることなど、地域に主体的に関わるが必要だと分かりました。現場に行くことで、疑問や発見がうまれると実感しました。

○秋田は私の故郷ではないけれど、もう6年も住んでいるので愛着が湧いてきている。今回の研修でいろいろな場所を回って、まだまだ秋田には私の知らない良さがあったことに気付いた。自分で足を運んで、実際に見ないとわからない良さもあった。私の故郷にも、私の将来の勤務地にも、そんな良さが沢山あるのだろう。できるだけ足を動かして地域の良さを見つけて、教育に生かせるよう考えていきたい。きっと、楽しく深い学びになると思う。



#### 【現職教員院生】

○2日間を通して「ふるさと教育」について大いに学ぶことができた。人口社会減が大きい仙北市が、地域を担う人材の育成に大きく力を入れていることがよくわかる1日目だった。そのためのY・Sプロジェクトは大館市に、足並みをそろえた学

校教育は横手市に、先進事例を求めて実践をスタートしたとのことだった。2日目は、仙北市の一大観光資源である田沢湖、駒ヶ岳を、「火山」という切り口で、林先生から解説をいただきながら見学した。新しい情報、新しい切り口でふるさと教材の質を高めることができた。充実した2日間となった。

○仙北市は県内有数の観光地である一方で、少子化や人口の社会減が加速していることから、地域の未来を見据えた教育の充実と子どもたちの育成に力を入れていることを理解することができた。そして、教育委員会と学校双方の説明から、教育目標のつながりと、その具現化を目指す連携が図られていることがうかがえた。

「火山によってつないだクニマスの命」という言葉から始まった二日目の研修視察であったが、噴火で誕生した水深日本一の湖、豊富な湧水、固有種であるクニマスの誕生と絶滅、辰子伝説など、全てにつながりがあり、自然や人の営みの力と歴史の奥深さを大いに実感することができた。また、物事を深く探求することの楽しさを感じた一日となり、子どもたちにもこうした楽しさを伝えられる授業づくりに努めてきたいと思った。

○歴史と伝統のまち角館。田沢湖や駒ヶ岳などの雄大な自然。魅力あふれる仙北市への2泊3日の旅により、我々の親睦もさらに深まった。仙北市の学校教育の目標は、「ふるさとを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体を持ち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」である。私は、この豊かな仙北市で学べる子どもたちがとてもうらやましく思えた。急激な少子化や社会の変化に対応しながら、全市をあげて「人づくり」に取り組む仙北市の教育には、今後も注目していきたいと思う。そして、林先生をはじめ、我々の学びにヒントを与えてくださった先生方、関係者の方々、そして、同じ釜の飯を食べ、じっくりと語り合うことのできた院生の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいである。

○私は仙北市民であるが、高校籍ということもあり市教委の組織や取組についての知識はほとんどなかった。しかし、市の幸福度NO. 1構想の素案に所属校の生徒を対象にしたアンケートが活用されていたり、仙北市の学校で使用しているのが高校と同じく chromebook であったりと、連携、協働していく手がかりを見えた。2日目は近々起こりうる駒ヶ岳噴火の防災について考えるきっかけとなった。事前に視聴した片田ビデオで「主体的に命を守る」ことの大切さを学んだが、この考えは所属校での駒ヶ岳登山実施中に万一噴火が起こった場合に噴石や有毒ガスから身を守る姿勢教育につながると思う。また、生徒を通して家族に伝えることで、生徒のみならず地域への広がりも期待できる。

○仙北市では、地域住民や新成人、高校生から広く意見を求め、市の教育方針に反映させていた。そうした地域の要望を十分に把握したうえで、市全体が地域の宝物である子どもたちを大切に育てようとしていた。市長のマニフェスト、教育長のビジョン、市教委の重点、学校現場の取組、これらが一体となっていた。市の教員は、研修会や授業公開等で互いに研鑽し、学校現場では「誰一人取り残すことのない教育」の実現のために様々な取組みがあった。「ふるさとを愛する子どもの育成」のため、地域、教育行政、学校現場一体となった取組は、これからの学校運営の参考となる部分が多く、貴重な学びの機会となった。

○初日の仙北市訪問、二日目のフィールドワークとも、学びが多く、授業者の先生方、教育長さんをはじめとする市教委事務局の先生方、林先生の溢れんばかりの想いのおかげだと感謝しております。日常の大学院生活とは違う、非日常の学びの場と、ホテルでのお風呂、食事、お酒を共にしながらのコミュニケーションのバランスがすばらしい研修旅行でした。先生方、同僚のみなさん、楽しい時間をありがとうございました。

○西明寺小学校での授業参観とその後に行われた

教育長の講話と教育次長、北浦教育文化研究所長からの説明、協議会がとても充実した良い研修の機会となりました。トップマネジメントのあり方、それを市内の各学校に周知して実践に繋げる教育委員会や各校管理職の働きかけなど、今後の自分の学校マネジメントにとって示唆に富む知見が得られました。また、仙北市のヤマメ・サクラマスプロジェクト(YSP)は、成功すれば多くの市町村にとって一つのモデルとなる施策だと期待しています。そのYSPを念頭に置きつつ、2日目に林先生から駒ヶ岳・田沢湖のお話を伺い、ふるさと教育のあり方についても深く考える好機となりました。

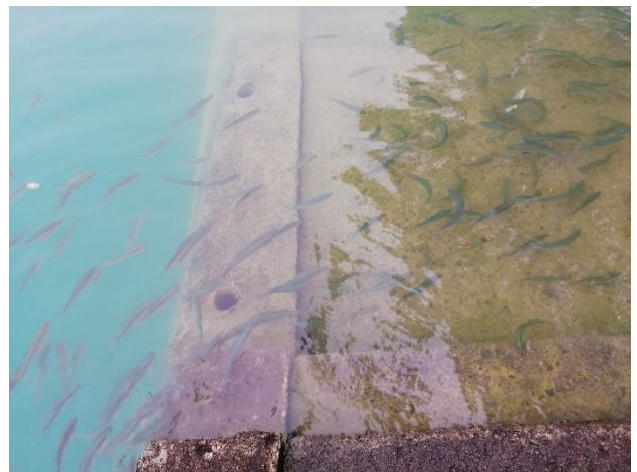
○仙北市は学校教育目標の実現に向けて「骨太の人間の育成」と「仙北ヤマメ・サクラマスプロジェクト」により、「10年かけて地元に残す」という教育長の熱い思いは特に印象深かった。今後は働く場所の問題もあるため、市長部局との密な連携をするとともに、起業していく人材を育てることが地元定着の大きな鍵となるだろう。今回の研修を通して、仙北市の自然の恵みは秋田の誇りであることを改めて実感できた。豊かな自然に抱かれた子どもたちの成長が益々楽しみである。

○学校の視察により、学ぶことは多い。授業者としてではなく、外から授業、学校を冷静に見ることができると、今までの実践と比較が可能である。仙北市の特色ある教育を今後の現場における経営に生かしていきたい。院生、教授の方々との懇親会が初めて行われた。コロナ禍のため、なかなか開催できなかったが、多くの人と話をすることができた。機会を捉えてまた行うことにしており、貴重な出会いを大切に、より一層仲間意識を高めていきたい。そして残りの学生生活を充実させていきたいと思った。

○初日は仙北市教育委員会の基本理念が小中学校の学校経営や校内研究まで一本の柱でしっかりとつながっていることを実感できた。「ふるさとを愛すること」は地域住民の教育に対するニーズにも



なっていることを感じた。二日目はフィールドワークが中心であった。火山－田沢湖－クニマスと、一連の流れで過去・現在を知ることができた。林先生のガイドのおかげで、このエリアに以前より興味を持つことができた。



教職大学院「学校危機管理の現状と課題」における  
危機管理に関する指導案、研修案

# 学校危機管理の現状と課題

## テーマ 事前対応 - 防災・安全教育

グループ【きりたんぼ】  
カリキュラム・授業開発コース 佐々木健真

## 授業設計

授業科目 : 総合的な学習の時間  
校種・学年 : 中学校第3学年  
単元名 : 地域住民の命を災害から守る

～防災リーフレットを作成しよう～



## 授業設計

### 単元の目標

- (1) 地域の一員として、自分や家族、地域住民の命を守るために自分にできること・やるべきことは何かを考え、地域を災害から守るための行動を実践しようとする態度を身に付けることができる。
- (2) リーフレットの作成を通して、防災に関する正しい知識を身に付けて防災への意識を高めるとともに、発信したい情報の取捨選択をする力や分かりやすく表現する力を身に付けることができる。

## 単元計画

### 指導計画(全25時間)

時間	主な学習活動
1	オリエンテーション
2～5	地域の災害について知る
6～7 (本時1/2)	防災リーフレットのテーマ決定・作成の計画を立てる
8～19	情報収集・内容やレイアウトの検討
20～21	発表会・意見交換
22～25	防災リーフレットの完成・地域への配布準備

・大学教授などの専門家を招き、講話を聞く。  
・長く住んでいる地域住民から過去の災害について話を聞く。etc.

## 作成した指導案について

### (1) 本時の実際

#### ねらい

防災リーフレットのテーマ決定のために意見を交流する活動を通して、地域の特徴や防災について考えを深めることができる。  
【思考力・判断力・表現力等】

## 作成した指導案について

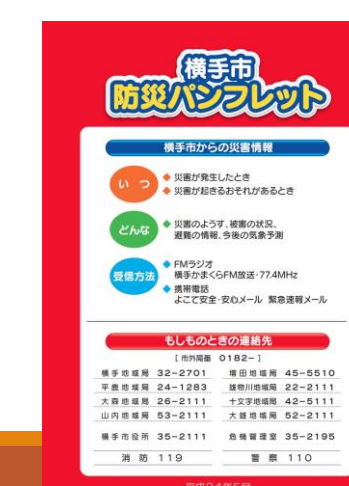
### (2) 学習過程～導入～

段階	学習活動(・予想される生徒の反応)	形態	指導の手立てと評価
導入 5分	1. 秋田県や各市町村が刊行する防災に関する資料があることを知る。	全体	・県や市町村では、防災に関するパンフレットやリーフレット等の資料が作成されていることを紹介する。
	2. 本時の学習の見通しを持つ。	全体	
	班ごとに作成する防災リーフレットのテーマを決定し、完成までの計画を立てる。		



←「災害から命を守るために」  
(秋田県教育委員会)

「防災パンフレット」→  
(横手市総務企画部危機管理室)



# 作成した指導案について

## (2) 学習過程 ～展開～

展開 40分	3.秋田県や各市町村が刊行する防災に関する資料を読み,自分たちがリーフレットを作成する際に取り上げたい情報や必要だと思う情報について意見を交流する。	個人 ↓ グループ	・リーフレット作成の手掛かりになるように,学習活動1で紹介した資料を読む時間をとる。 例「災害から命を守るために」(秋田県教育委員会) 「防災パンフレット」(横手市総務企画部危機管理室) ・ネットで閲覧可能な資料は URL を提示し,個々のタブレットで閲覧できるようにする。
	4.班ごとに防災リーフレットのテーマを決定する。 ・私たちの地域で災害時に危険な場所について ・避難経路や避難場所について ・災害に対する日頃からの備えについて	グループ	・テーマ決定に悩んでいる班には,前の学習活動で確認した資料から,あれば良いと思った情報は無かったか考えてみるよう助言する。 ・各班でテーマの重複を避けるために,決まった班から現時点でのテーマを黒板に書いてもらい,全体で確認できるようにする。
	5.リーフレット作成の計画を立てる。	グループ	防災リーフレットのテーマ決定のために意見を交流する活動を通して,地域の特徴や防災について考えを深めることができる。 【思考力・判断力・表現力等】(学習シート,対話)



### 学習活動4 防災リーフレットの作成は 地区ごとのチームになって行う



# 参考資料

・「防災リーフレット」を作成・配布しました | 美の国あきたネット

URL <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/6369> 閲覧日:2022.12.22

・横手市「防災パンフレット」2012年5月 | akita ebooks

URL [https://static.akita-ebooks.jp/actibook\\_data/2012\\_05\\_bousai\\_yokote](https://static.akita-ebooks.jp/actibook_data/2012_05_bousai_yokote) 閲覧日:2022.12.22

# 4コマ漫画教材を活用した防災研修会

きりたんぼ班

## 1. 研修の概要

- ねらい  
4コマ漫画の決断や登場人物のセリフを埋める中で、災害時の場面を具体的にイメージし、有事における避難所運営の際に教職員が協力して適切な判断・対応ができるようにする。
- 日程  
令和〇年〇月〇日（15：30～16：20）
- 場所  
会議室
- 参加者  
全教職員

きりたんぼ班

1

## 2. 4コマ漫画教材について（教材作成者より）

4コマ漫画教材は、宮城県南三陸町のとある中学校の避難所運営訓練をもとに生まれました。そこでは、生徒達が自ら避難所運営本部を立ち上げ、先生から投げ掛けられる様々な問題に立ち向かいながら、避難所を運営していました。そして、何か問題が発生したとき、返答に困ったときは、周りにいる人を集め、協力して問題の解決策を考えていました。

私たちは、訓練に参加していない方にもこの中学生たちと同じ体験をして頂きたいと思い、4コマ漫画という形で表現しました。

災害時には答えのない難しい問題に直面します。まずは、この中学校の生徒が直面していた問題を考えてみてください。その後、設定を変えたり、登場人物を変えたりして、自分たちの身に起こりうることをテーマに取り上げ、学校や地域の人と話し合ってみてください。

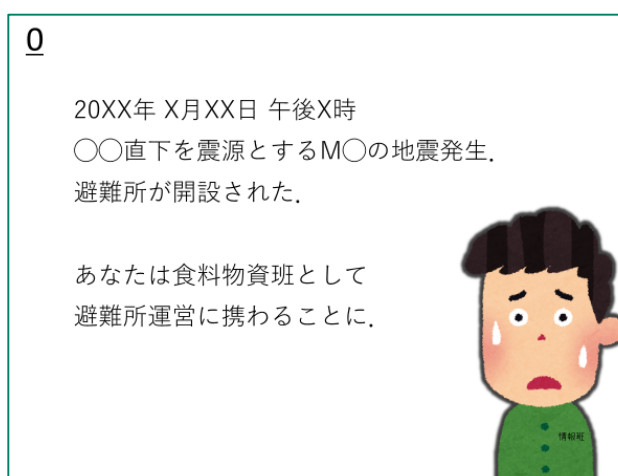
もちろん大人の研修にも

きりたんぼ班

2

## 3. 4コマ漫画教材の構成について

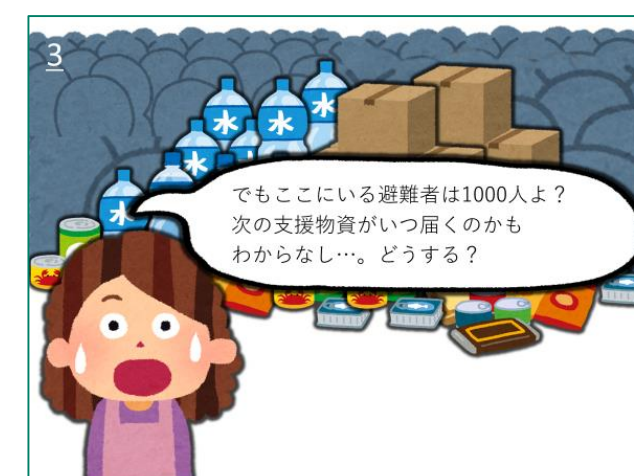
### 0 場面設定のコマ



### 1・2 問題発生のコマ



### 3 問いかけのコマ



### 4 説明・説得のコマ



きりたんぼ班

3

## 4. 研修の進め方

時間	内容	備考
1	校長あいさつ	
5	研修の趣旨・概要説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>有事の際に教職員が避難所を運営する側になることを説明する。</li> <li>4コマ漫画の使い方、グループで何を話し合ってもらうかを確認する。</li> </ul>
22	問題の解決策の話し合い（4グループ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題に対する解決策をできるだけ多く出す。</li> <li>グループとしての解決策を1つ決める。</li> <li>解決策について、説明・説得するためのセリフを作る。</li> </ul>
12	各グループによる説明・説得	各グループごとに避難者を説得する形で発表する。
5	個人ごとに振り返り	2～3名に発表してもらおう。
3	校長講評	

きりたんぼ班

4

## 5. 4コマ漫画教材の実践例



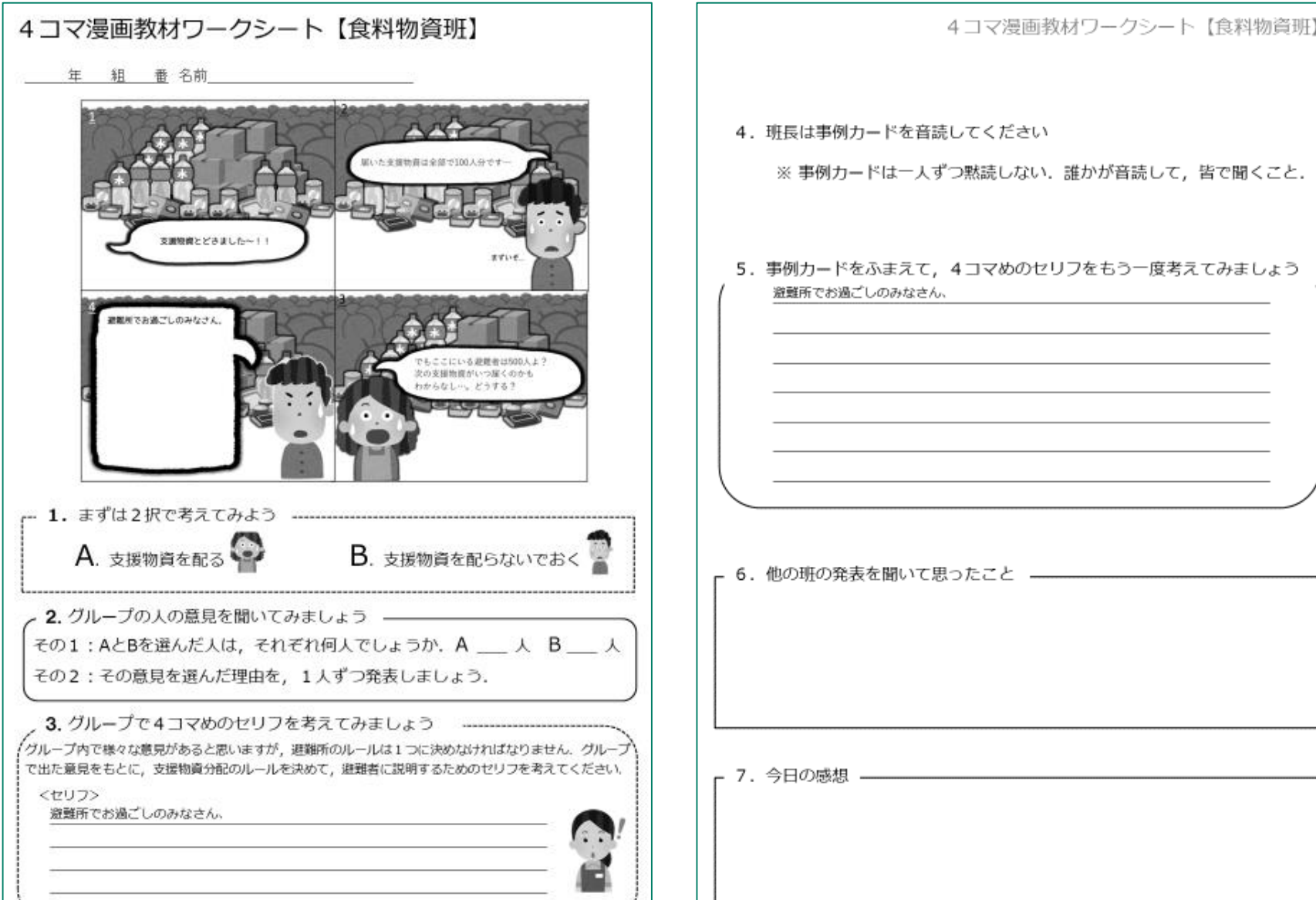
きりたんぼ班

5

## 5. 4コマ漫画教材の実践例

4コマ漫画教材ワークシート【食料物資班】

年 組 番 名



4. 班長は事例カードを音読してください  
※ 事例カードは一人ずつ黙読しない。誰かが音読して、皆で聞くこと。

5. 事例カードをふまえて、4コマめのセリフをもう一度考えてみましょう  
避難所でお過ごしのみなさん。

6. 他の班の発表を聞いて思ったこと

7. 今日の感想

1. まずは2択で考えてみよう  
A. 支援物資を配る B. 支援物資を配らないでおく

2. グループの人の意見を聞いてみましょう  
その1: AとBを選んだ人は、それぞれ何人でしょうか。A \_\_\_人 B \_\_\_人  
その2: その意見を選んだ理由を、1人ずつ発表しましょう。

3. グループで4コマめのセリフを考えてみましょう  
グループ内で様々な意見があると思いますが、避難所のルールは1つに決めなければなりません。グループで出した意見をもとに、支援物資分配のルールを決めて、避難者に説明するためのセリフを考えてください。  
避難所でお過ごしのみなさん。

きりたんぼ班

6

## 5. 4コマ漫画教材の実践例

◆ 生徒の回答例 ◆

お年寄りや子ども、体の弱い人から渡そう。  
幼稚園以下の子どもに限定して渡しましょう。  
防災リュックを持っている人に協力してもらうことにしよう。  
お年寄りや子ども、体の弱い人で100人を超えた場合は、体の弱い人を優先しよう。

◆ 先生方へ、教材のアレンジ方法 ◆

学校の先生を4コマ漫画に登場させてみる。  
避難民の人数をその地域の規模に合わせてみる。  
支援物資の中身を具体的に、おにぎりや水、衣類などの分配方法を考えてみる。

きりたんぼ班

きりたんぼ班

7

## 6. 事例カードの使い方

事例カードは、各グループでの話し合いの後半に差し掛かり、グループの意見が出尽くしてきたタイミングで使う補助教材。過去の災害における事例を載せているので、研修の補助教材としても、授業の読み物としても使うことができる。

◆ 事例カードの説明

事例カードは過去の災害における被災者の体験をまとめたものです。体験談は4コマ漫画の内容に即したものを載せていて、1つの4コマ漫画に対して8枚の事例カードを用意しています。

オモテ

ウラ

1 体験談の番号  
体験談は全部で8つあります。4コマ漫画の中で発生している問題に対して賛成・反対の両方のエピソードを載せるようにしています。

2 体験談のタイトル

3 4コマ漫画のタイトル

4 過去の災害における事例  
4コマ漫画の内容に即した事例を載せています。


実際の避難所であったこと  
**食料物資班**

体験談1: みそ汁が不足で大騒ぎ  
地域の炊き出し班長の私は、避難所の体育館内の全員に行き渡るように400人分のみそ汁を作りました。第一に子ども、次に高齢者、最後に大人という優先順立が自然にできあがったときは、「やはり日本って、すごいなあ」と感じました。ところが、自家用車内に避難していた人たちを数えていなかったのです。見込みが甘かったとはいえ、「おれのはないのか!」と怒られるのはすごく切なかつた。

きりたんぼ班

8

## 7. 4コマ漫画教材の種類



教材の種類は

- 食料班
- 庶務班
- 情報班
- 衛生班
- 学校再開準備班
- ボランティア班

他にも工夫してつくってよい

きりたんぼ班

きりたんぼ班

9

## 8. 事後の活動

- 研修会の発表・振り返りの内容をふまえて、防災委員会において避難所運営計画を危機管理マニュアルに追加し、後日の職員会議で報告し全体に共有する。
- 被災地においては中学生・高校生が避難所の運営側に立つことも十分考えられることであり、道徳や特別活動、総合的な学習の時間等を活用して同様の研修をおこなう。



きりたんぼ班

## 9. 参考

- 4コマ漫画教材作成  
慶應義塾大学防災社会デザイン研究室  
作成：齋藤文（政策・メディア研究科）  
監修：大木聖子（環境情報学部准教授）  
© 2015 Oki lab. Keio Univ.
- 慶應義塾大学防災社会デザイン研究室・大木聖子研究室  
<http://www.bosai.sfc.keio.ac.jp>
- 一日前プロジェクト：防災情報のページ - 内閣府  
（4コマ漫画の事例カード用資料として その他防災教育資料として）  
<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae>

きりたんぼ班

11

## 1. 題材のねらいと背景

緊急時対応(地震発生時)  
についての指導案

## 題材「地震災害から身を守るために」

はたはた 班

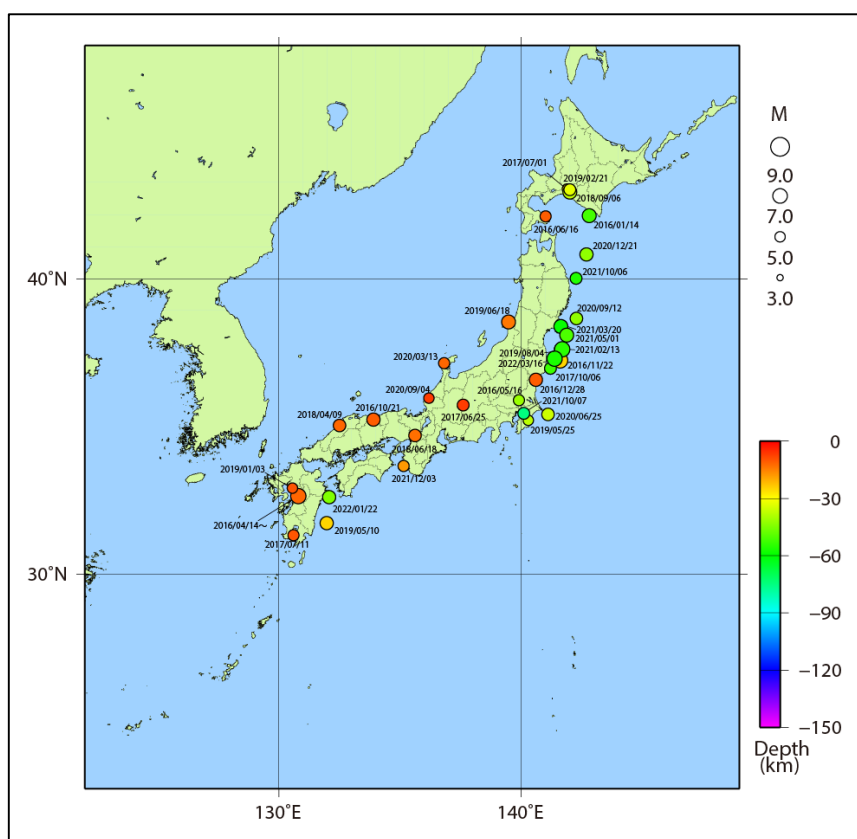
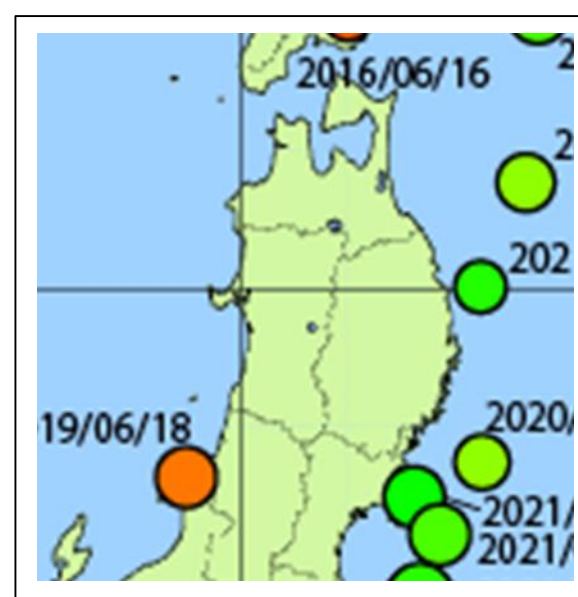
対象学年：秋田市の小学校5年生

様子：避難訓練や、小さな地震が起こった際に危機感がなく、適切な避難行動をとっていない。

## 1. 題材のねらいと背景

3/12

## 日本付近で発生した主な被害地震

日本付近で発生した主な被害地震の震央分布  
2016年以降(気象庁)

2011年4月2日以降、秋田県で大きな被害地震は発生していない。

## 1. 題材のねらいと背景

4/12

対象学年：秋田市の小学校5年生

様子：避難訓練や、小さな地震が起こった際に危機感がなく、適切な避難行動をとっていない。

2011年4月2日～  
2012年4月1日生まれ  
↓  
生まれて以降、秋田県内では震災が起こっていない。

↓  
💡震災の具体的なイメージ・体験がなく、地震発生時の危険について理解できていない。

ねらい：地震発生時の危険について理解し、適切な避難行動をとることができるようになる。

## 2. 指導計画と支援のポイント

5/12

## 指導計画

時数	学習活動	教師の主な支援	評価
1 本時	地震発生時の危険について理解し、適切な避難行動を理解することができる。	地震発生時の危険について、具体的なイメージをもてるように、ビデオを視聴した後、教室などのイラストから危険を予測する活動を行う。	地震発生時の危険について理解し、適切な避難行動を理解することができる。
2	地震発生時の危険について理解し、適切な避難行動をとることができる。	地震発生時の危険について、体験を通して理解できるように、地域の消防機関と連携して、地震体験車を用いた活動を行う。	地震発生時の危険について理解し、適切な避難行動をとることができる。

💡地震発生時の危険について、具体的なイメージをもてる・体験を通して理解できるような活動を取り入れる。

## 2. 指導計画と支援のポイント

6/12

## 地震体験車の紹介



「県民防災の日」想定訓練で用いられた地震体験車の写真  
(北秋田市ホームページ)

震度2～7までの揺れの体験ができる。過去の大きな地震やさまざまな地震動を再現できるため、地震の実態や地震に対する備え・心構えなどを伝えることのできる車。

(秋田県防災ポータルサイトで貸出の申し込みができる)

## 3. 本時(1/2)案と支援のポイント

## 導入

時	学習活動と◆発問	○教師の主な支援と★評価
10分	1 心のケアを受ける。	○児童の心身の状態に十分に配慮する。
	2 地震発生時の行動について、知っていることを発表する。 ◆地震が起きたら、何をすればいい？	○過去に経験した地震や、避難訓練の経験から考えるよう支援する。 ○命を守るための授業であることを確認することで、学習意欲を高める。

地震の危険について考え、正しい行動をとれるようになるろう。

💡心のケア  
→次のスライド

## 3. 本時(1/2)案と支援のポイント

## 導入

## 💡心のケア

児童生徒等の実態に応じて、授業の「導入」「まとめ」に、以下のような「心のケア」を行う必要がある。

## 【「導入」心のケア実践例】

- これから自然災害について学習するが、災害について理解し、正しく対処する方法を学ぶことは、安心につながることを伝える。
- ドキドキすることがあっても、それは自然なことだから安心してよいこと。また、我慢できなくなったら、遠慮なく先生に知らせるよう伝える。
- 「災害」や「地震」という言葉自体は安全なものだから、安心して授業を受けてほしいことを伝える。

(地域へ、全国へ、そして未来へつなげる熊本県の防災教育 学校防災教育指導の手引き)

## 3. 本時(1/2)案と支援のポイント

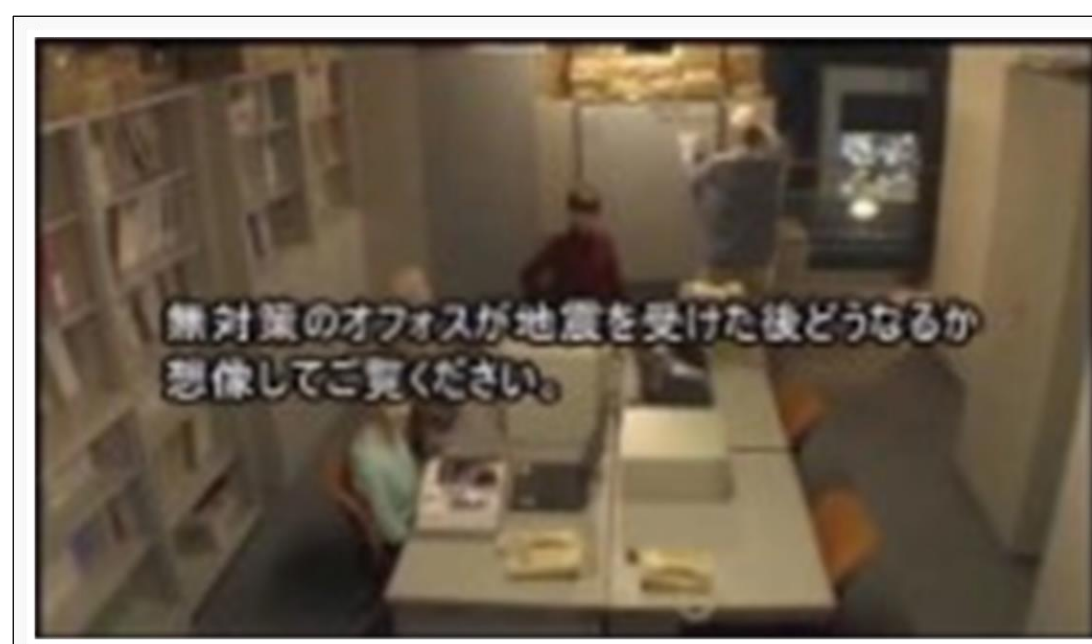
## 展開

時	学習活動と◆発問	○教師の主な支援と★評価
25分	3 ビデオを見て、地震発生時の危険について理解する。 ◆地震が起きたら、どんな危険があった？	○ビデオを視聴し、地震発生時の危険について確認する。 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=anLfBd3g1Rk">https://www.youtube.com/watch?v=anLfBd3g1Rk</a>
	4 教室の写真から、地震発生時の危険を予測する。 ◆地震が起きたら、どんな危険がありそう？	○実際の教室の写真を見ながら、地震発生時に危険だと思う部分に印をつけることで、具体的なイメージをもてるようにする。

💡ビデオの視聴  
→次のスライド

## 3. 本時(1/2)案と支援のポイント

## 展開



地震発生時のオフィス内(対策なし)  
(独立行政法人 防災科学技術研究所)

## 💡ビデオの視聴

大きな地震が起きた際に、身の回りではどんなことが起こるのかわかるような、ビデオを用意する。

↓  
地震発生時の危険について、具体的なイメージをもてるようになる。

## 3. 本時(1/2)案と支援のポイント

## まとめ

時	学習活動と◆発問	○教師の主な支援と★評価
10分	5 地震発生時の避難行動を知り、実際に訓練を行う。 ◆揺れが弱い場合はどう？	★地震発生時の危険について理解し、適切な避難行動を理解することできている。 【知識・技能】<観察>
	6 心のケアを受ける。	○児童の心身の状態に十分配慮する。

💡心のケア  
→次のスライド

## 3. 本時(1/2)案と支援のポイント

## まとめ

## 💡心のケア

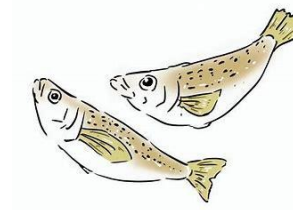
児童生徒等の実態に応じて、授業の「導入」「まとめ」に、以下のような「心のケア」を行う必要がある。

## 【「まとめ」心のケア実践例】

- 授業の週末にリラクゼーション(セルフハグ法・リラックス呼吸法等)を実施し、心身のリラクセスを図る。
- 「1時間よく頑張ったね」など、労いの言葉をかける。

(地域へ、全国へ、そして未来へつなげる熊本県の防災教育 学校防災教育指導の手引き)





## 学校に避難所が開設された場合を想定して ～災害当日の流れを中心に～

【はたはた班】

嵯峨静人 渡部和朝 菅原 渉

## 2. 研修の進め方

★班をつくり、班内で進行役を決める。

- (1) <確認・説明>災害が起きてからの流れの確認、避難所運営についての説明 等 【10分】
- (2) <ステップ1>学校に地域住民が避難してきたときに、学校が迫られる対応についての考えを付箋に書き、班内で意見交換し、発表する。 【15分】  
(例) 避難者を受け入れる教室・部屋を解放する  
新型コロナ等の感染症対策
- (3) <ステップ2>他の班の意見も含めて、出た意見を時系列に並べ、「学校が対応すべきこと」と「市町村の担当部局や地域が対応すべきこと」を分類する。【5分】
- (4) <ステップ3>学校として準備しておくもの(こと)を模造紙に書き、班内で意見交換し、発表する。
- (5) <まとめ>学校防災体制の一層の充実に向けて 【5分】  
※市の危機管理対策室の担当からコメントをもらうことも考えられる

2023/1/6

## 避難所運営への支援が始まる

学校は本来教育施設であり、災害時における学校の果たすべき最も重要な役割は、児童生徒の安全を確保することにある。

しかし、大規模災害が発生した場合には、避難所に指定されている学校はもちろんのこと、指定されていない学校であっても、災害の規模や被害の状況、地域の実情等により緊急の避難所となることが予想される。

避難所の運營業務は市町の責務である。  
しかし、阪神・淡路大震災のように市町の行政対応能力を超えた場合には市町の職員だけの対応は事実上不可能

学校に開設された避難所の運營業務を教職員が支援することになる

5

2023/1/6

## 1. 研修の目的

円滑な避難所運営を図るため、災害時における組織づくりや対応手順の確認を行うとともに、教職員が自分の役割を理解する。また、学校として想定される問題や対応等について教職員間で共通理解する。

### 【この研修により生み出される効果】

- 全ての教職員で学校が避難所となったときの自分の役割を理解することで、危機管理意識の向上につながる。
- 学校が避難所となったことを想定した対策をとることで、災害時に臨機応変に対応できる。

## 児童・生徒が学校にいるときに地震等の大規模災害が発生したら・・・ <確認・説明>

### 児童・生徒への対応



### 避難者への対応も・・・

### それも児童・生徒への対応と並行して・・・

4

2023/1/6

あなたの学校が避難所になった場合を想定して、考えてみましょう。

【災害の状況】  
・発生日 令和〇年1月〇日(〇)  
・発時刻 15:00(5校時目)  
※児童・生徒が在校中を設定  
・地震の震度 震度7  
・天気 雨  
・状況 電気・ガス・水道が使えない  
負傷者が多数出ている状況  
校舎・体育館は使える状況  
(その他追加する状況を記載)



阪神・淡路大震災時の避難所の様子

6

2023/1/6

**<ステップ1> 【15分】**

学校に地域の方々が多数避難してきました。発災初期(発災日~2日目)に、学校が迫られる対応を考え、まず個人で付箋に書いた後、班内で意見交換してください。その後各班から発表してください。

- 【例】・避難者を受け入れる部屋の開放  
・避難者の受付  
・避難者の受付  
・負傷者の手当  
・ボランティアの受入れ 等

**<ステップ2> 【5分】**

付箋に書いた意見を時系列に並べてください。その際「学校が対応すべきこと」と「市町部局や地域が対応すること」に分類してください。

(学校が対応) 【発災直後】 (市町部局や地域が対応)



- [参考] 出そうな意見例  
(学校が対応)  
・体育館や教室の開放  
・避難者の誘導  
・看板の設置  
・負傷者への対応  
・避難者の名簿管理  
・トイレの設置 (水の確保、運搬)  
(地域が対応)  
・ゴミ集積場所の管理  
・炊き出し  
・食料・飲料水の確保

**<ステップ3> 【10分】**

学校として、準備しておくべきもの(こと)を確認し、班内で意見交換をして、模造紙に書いてください。その後班内で交換した意見を発表してください。

- 【例】・地域との打ち合わせ会で、誰が鍵を開けるかの打ち合わせをする  
・学校の開放区域を決めておく  
・避難者名簿の様式をあらかじめ作成しておく 等



**<おわりに>**

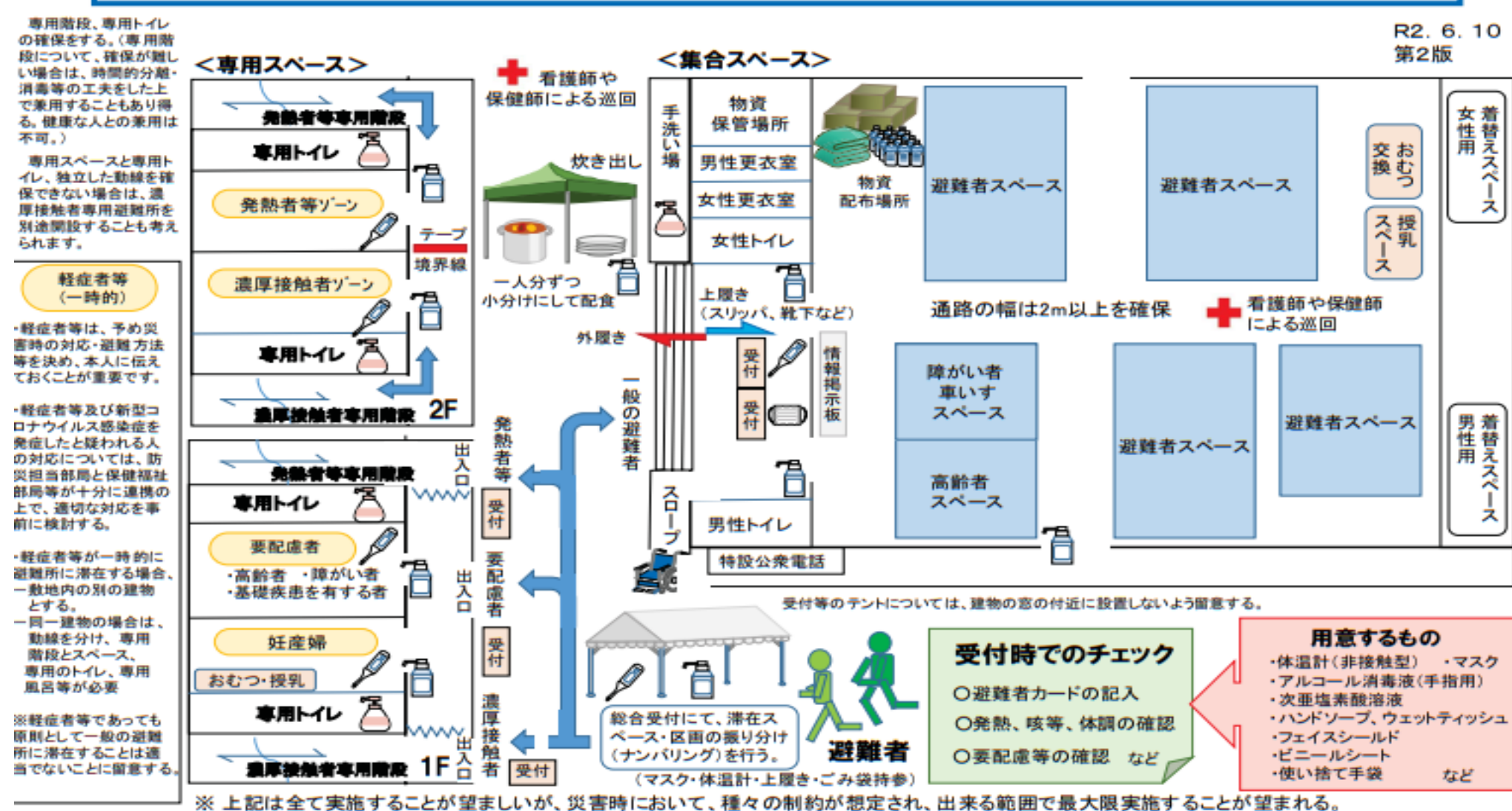
日頃から危機管理意識を高め、職員間や地域、関係機関との連携に努めましょう。



**参考資料**

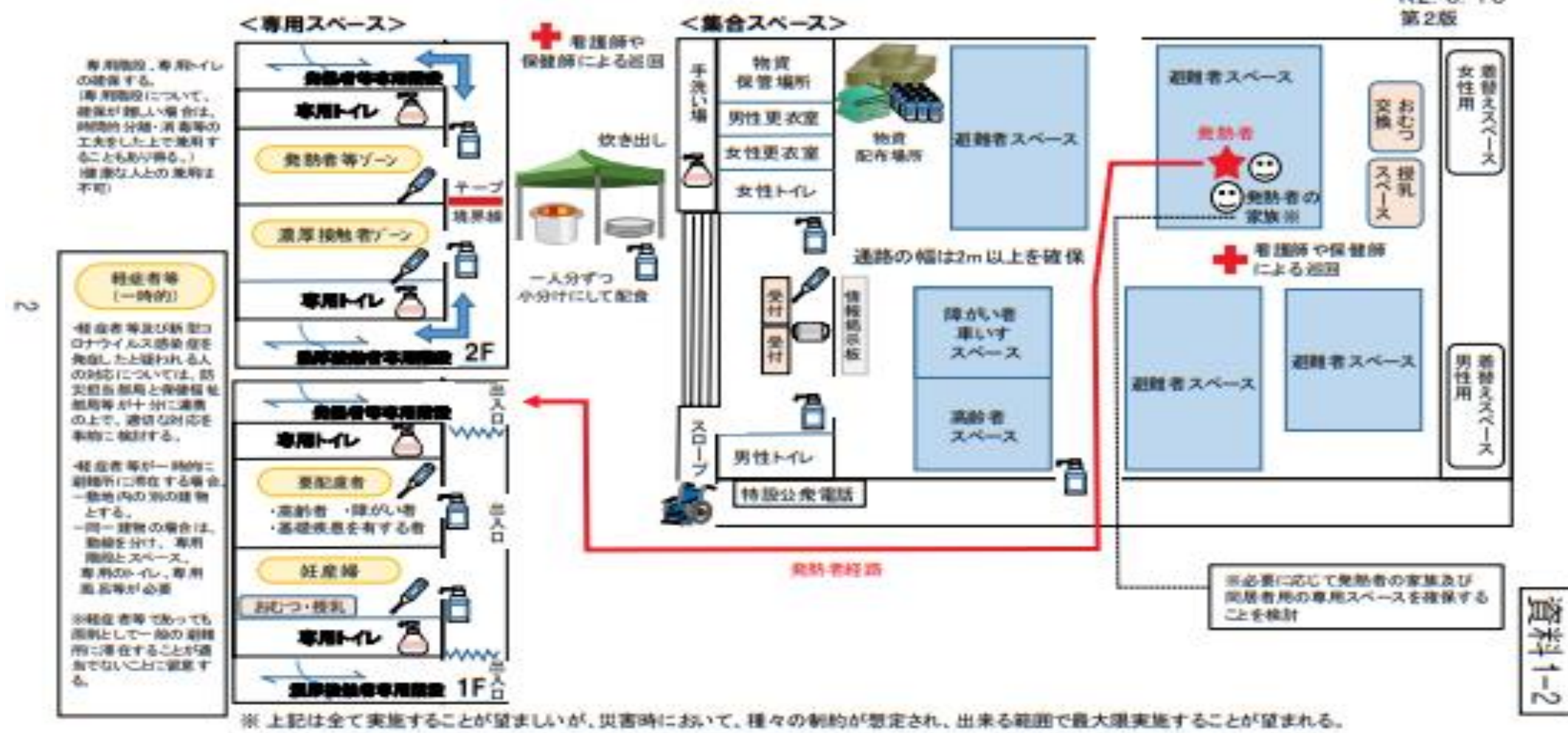
横手市は、12月22日(木)に「Zoom」を運営する「ZVC JAPAN」と包括連携協定を結んだ。同社はズーム活用のノウハウや先行事例を市に提供。連携項目は、子育て支援、教育・文化、環境対策、災害対策など11分野。

**新型コロナウイルス感染症対応時の避難所レイアウト(例) <避難受付時>**



### 新型コロナウイルス感染症対応時の避難所レイアウト（例）〈避難受付以降〉

R2. 6. 10  
第2版



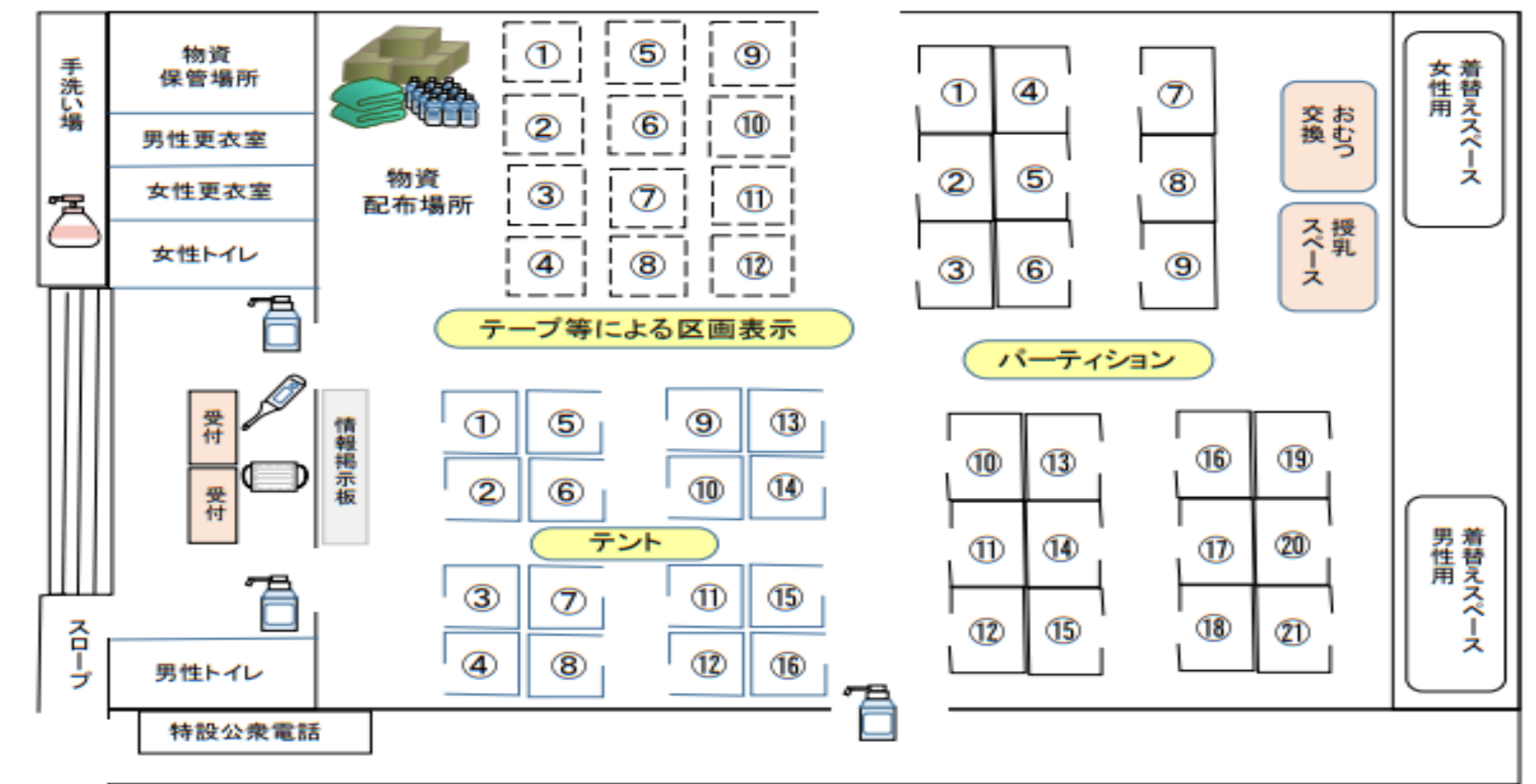
※ 上記は全て実施することが望ましいが、災害時において、種々の制約が想定され、出来る範囲で最大限実施することが望まれる。

2023/1/6

### 健康な人の避難所滞在スペースのレイアウト（例）

R2. 6. 10  
第2版

● テープ等による区画表示やパーティション、テントを利用する場合は、番号等を付し、誰がどの番号等の区画等に滞在しているか分かるように管理する。



資料1-3

2023/1/6

### 健康な人の避難所滞在スペースのレイアウト（例）

R2. 6. 10  
第2版

- 体育館のような広い空間において、健康な人が滞在するスペースとしては、以下のような方法が考えられる。感染対策やプライバシー保護の観点からは、パーティションやテントを用いることが望ましい。
- 感染リスクの高い高齢者・基礎疾患を有する者・障がい者・妊産婦等が滞在する場合には、避難所内に専用スペースを設けることが望ましいが、体育館内に専用ゾーンを設け、以下と同様の考え方で利用することも考えられる。



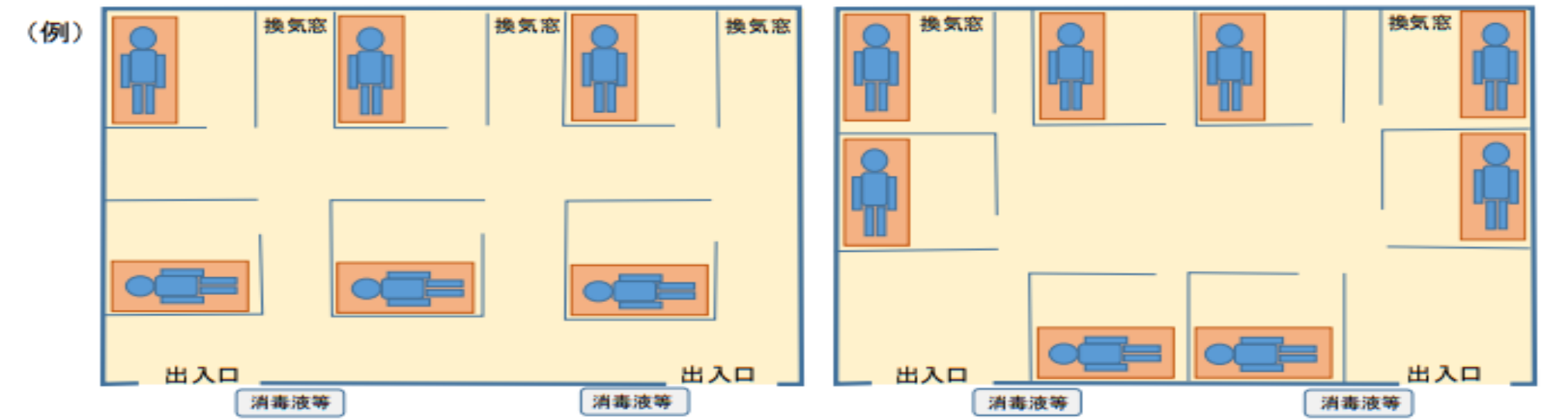
※ 人と人の間隔は、できるだけ2m（最低1m）空けることを意識して過ごしていただくことが望ましい。  
 ※ 避難所では、基本的にマスクを着用することが望ましい。特に、人と人との距離が1mとなる区域に入る人はマスクを着用する。  
 ※ 上記は全て実施することが望ましいが、災害時において、種々の制約が想定され、出来る範囲で最大限実施することが望まれる。

2023/1/6

### 発熱・咳等のある人や濃厚接触者専用室のレイアウト（例）

R2. 6. 10  
第2版

- 発熱・咳等のある人や濃厚接触者は、それぞれ一般の避難者とはゾーン、動線を分けること。
- 発熱・咳等のある人は、可能な限り個室にするのが望ましいが、難しい場合は専用のスペースを確保する。やむを得ず同室にする場合は、パーティションで区切るなどの工夫をする。
- 濃厚接触者は、可能な限り個室管理とする。難しい場合は専用のスペースを確保する。やむを得ず同室にする場合は、パーティションで区切るなどの工夫をする。  
 ※ 濃厚接触者は、発熱・咳等のある人より優先して個室管理とする。
- 人権に配慮して「感染者を排除するのではなく、感染対策上の対応であること」を十分に周知する。



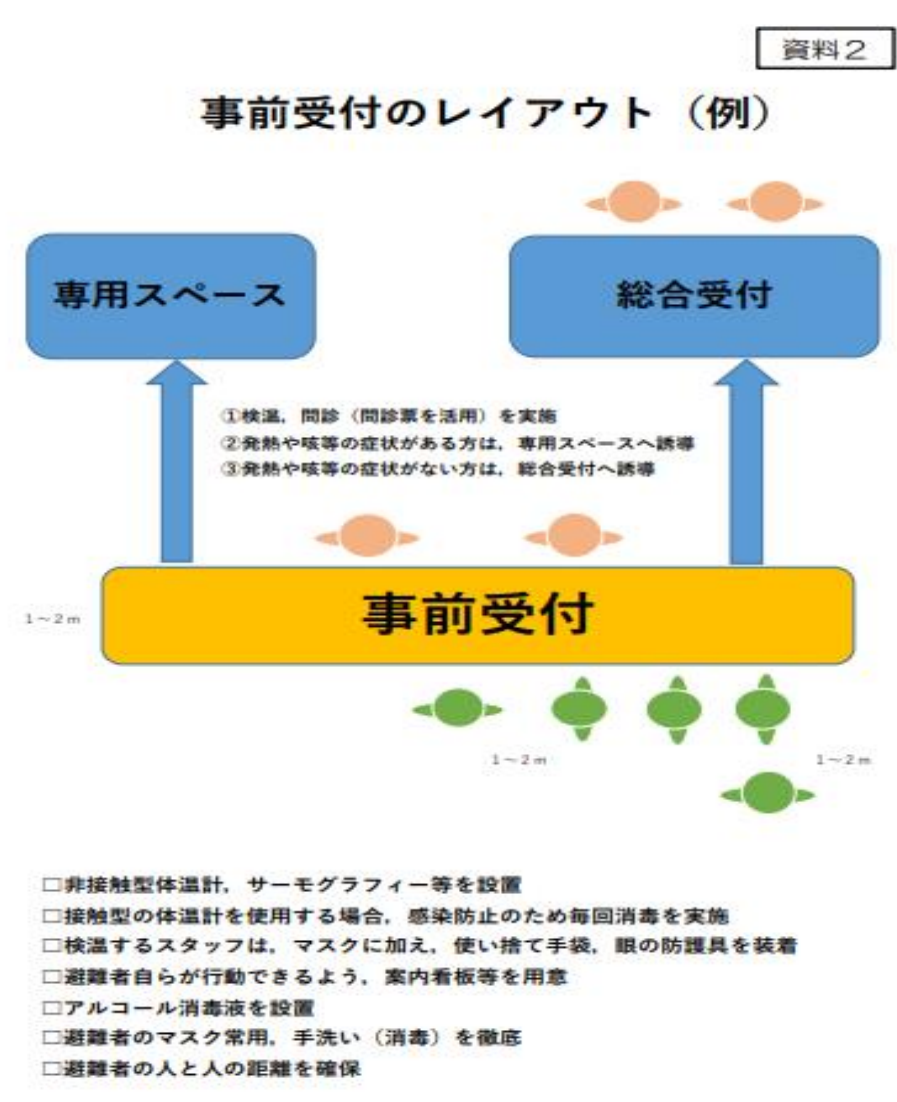
※ 飛沫感染を防ぐため、少なくとも座席で元より高いパーティションとし、プライバシーを確保する高さにするのが望ましい。また、換気を考慮しつつ、より高いものが望ましい。  
 ・軽症者等は、予め災害時の対応・避難方法等を決めておくことが望ましいが、避難所に一時的に滞在する可能性がある。  
 ・感染予防および医療・保健活動のしやすさの観点から、地域における感染拡大状況や、各避難所、活用するホテル・旅館等の状況を踏まえ、防災担当部局や保健福祉部局等の連携のもと、必要に応じて特定の避難者の専用の避難所を設定することも考えられる。  
 (例：高齢者・基礎疾患を有する者・障がい者・妊産婦用、発熱・咳等の症状のある者用、濃厚接触者用)  
 ※ 発熱・咳等のある人や濃厚接触者は、マスクを着用する。  
 ※ 上記は全て実施することが望ましいが、災害時において、種々の制約が想定され、出来る範囲で最大限実施することが望まれる。

資料1-4

2023/1/6

## 災害時はこれ！

# 段ボールを使った簡易パーティション



- 非接触型体温計、サーモグラフィー等を設置
- 接触型体温計を使用する場合、感染防止のため毎回消毒を実施
- 検温するスタッフは、マスクに加え、使い捨て手袋、目の防護具を装着
- 避難者自らが行動できるよう、案内看板等を用意
- アルコール消毒液を設置
- 避難者のマスク着用、手洗い（消毒）を徹底
- 避難者の人と人の距離を確保

### 新型コロナウイルス感染症対策

ほかの人にうつさないため

- ・隣の人とは、1~2メートル以上離れて過ごしましょう
- ・常にマスクを着用しましょう
- ・ドアノブ等の共有部分に触れた後は、手洗い、消毒を徹底しましょう
- ・毎日、体温・体調チェックをしましょう
  - ◆ 朝、昼、夕 3回実施
  - ◆ 発熱や体調が良くないときは、スタッフへ報告してください
- ・居住スペース以外で食事をとらないようにしましょう

### 避難所運営上の協力をお願いします

- ・定期的に換気しましょう
  - ◆ 30分に1回以上、数分間程度、2方向の窓を全開
- ・ドアノブ等の共有部分の消毒、トイレの清掃は毎日こまめに実施しましょう。
  - ◆ 共有部分は、0.05%次亜塩素酸ナトリウムで拭く
- ・物品や食事の提供時は、手渡しを避けましょう
- ・ごみは各家族で、ごみ袋の口を縛って捨てましょう



2023/1/6

# 簡易パーティション



段ボール箱で土台を作り、もう一つの段ボール箱を差し込む



段ボール箱2つ・粘着テープ・はさみ

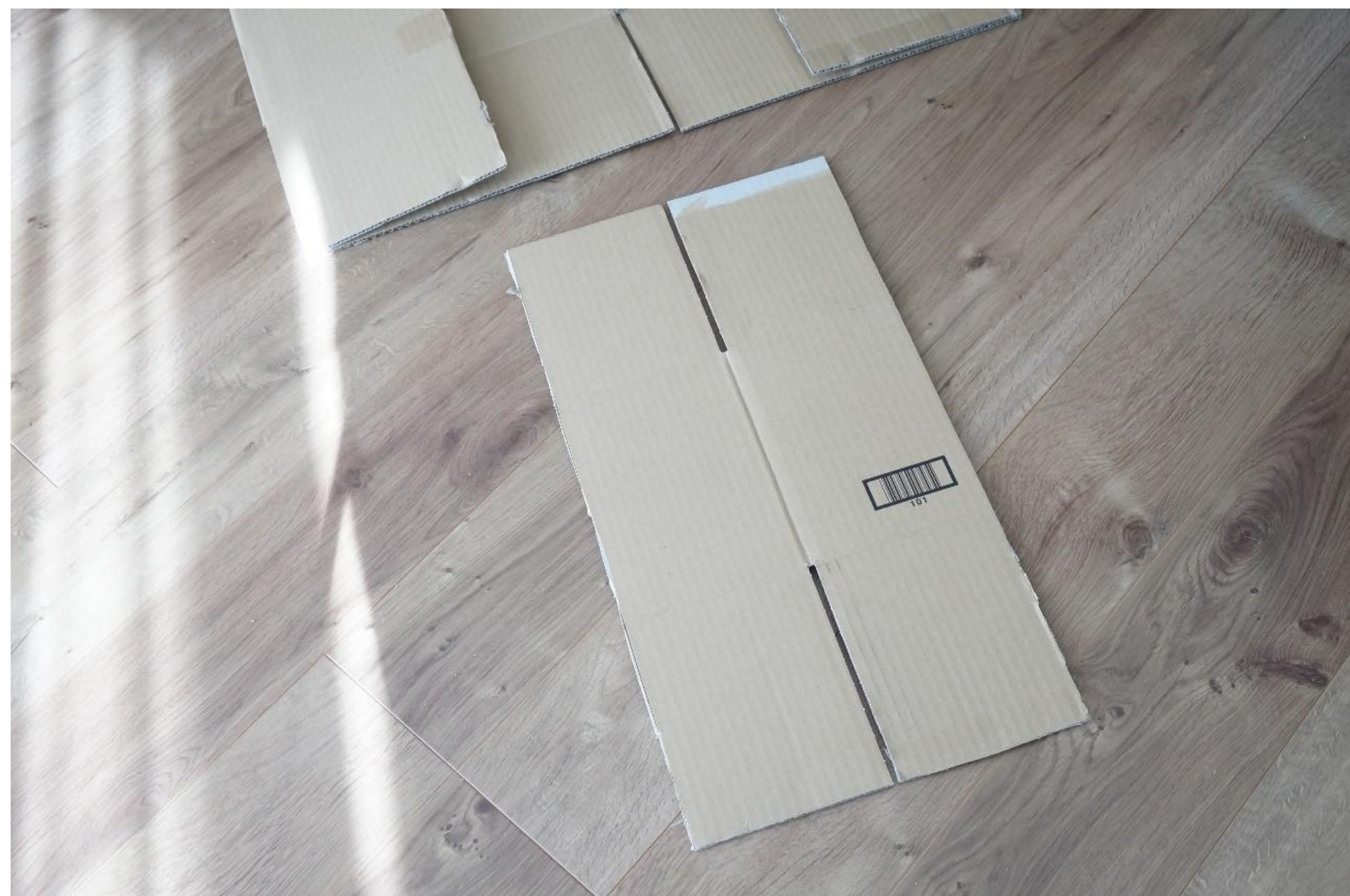
## 作り方



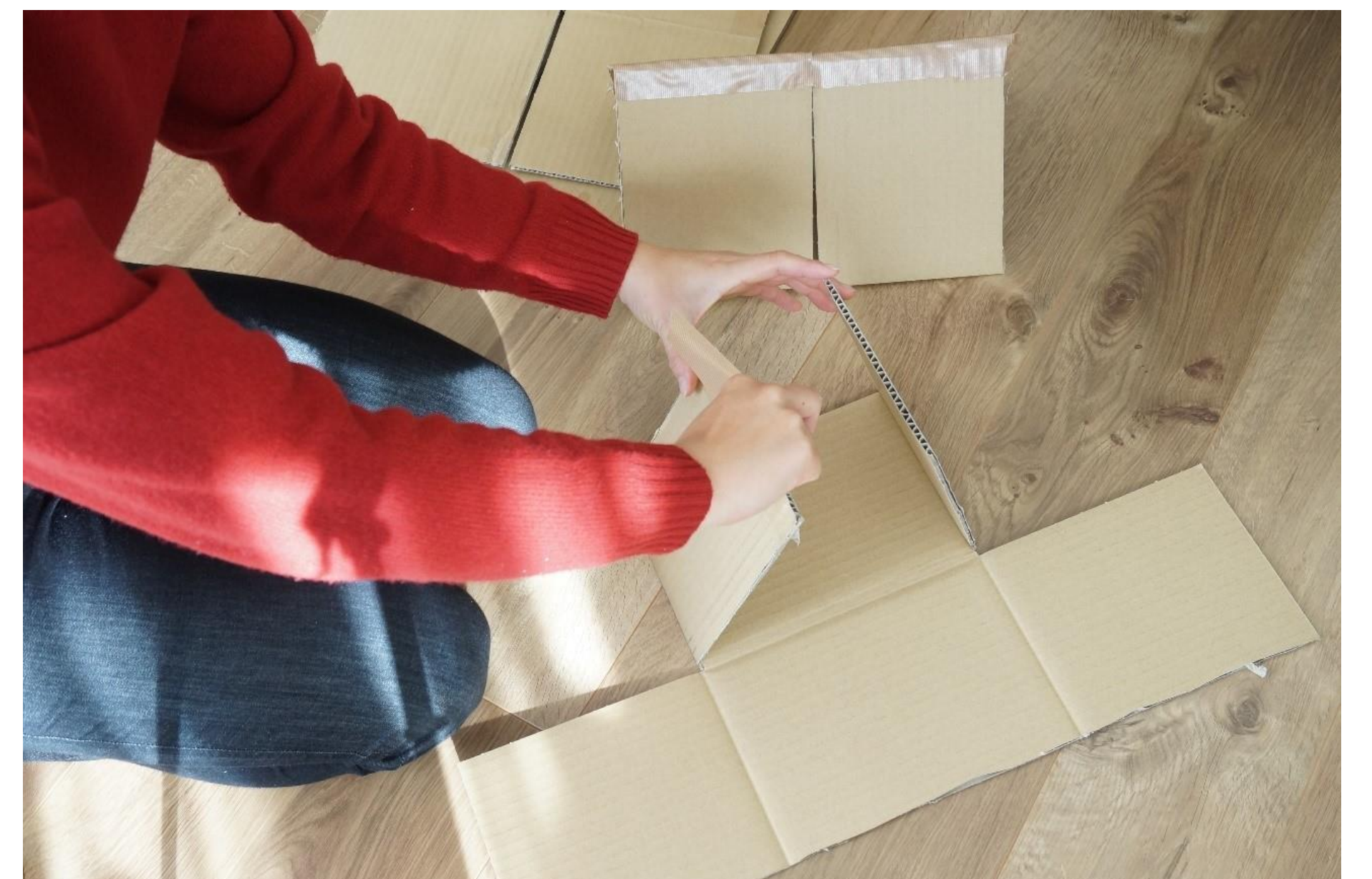
①土台にする段ボール箱を上下に開く。



②箱の角にあたる部分を立てに切り取る。



③1つの箱からパーツが4つできる。



④三角形が2つできるように折り、粘着テープで止める。

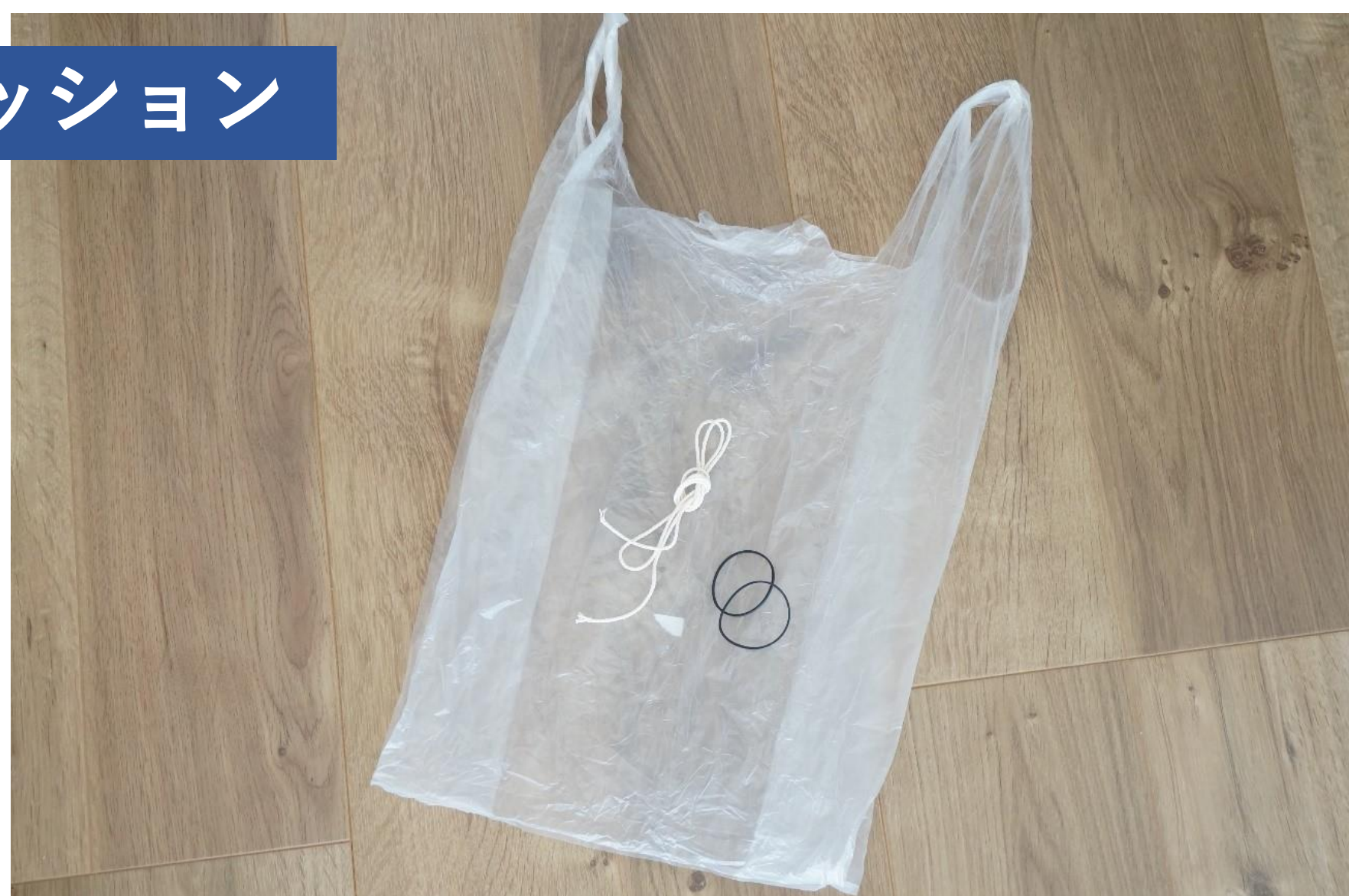


⑤土台の完成。真ん中の隙間はそのままだしておく。

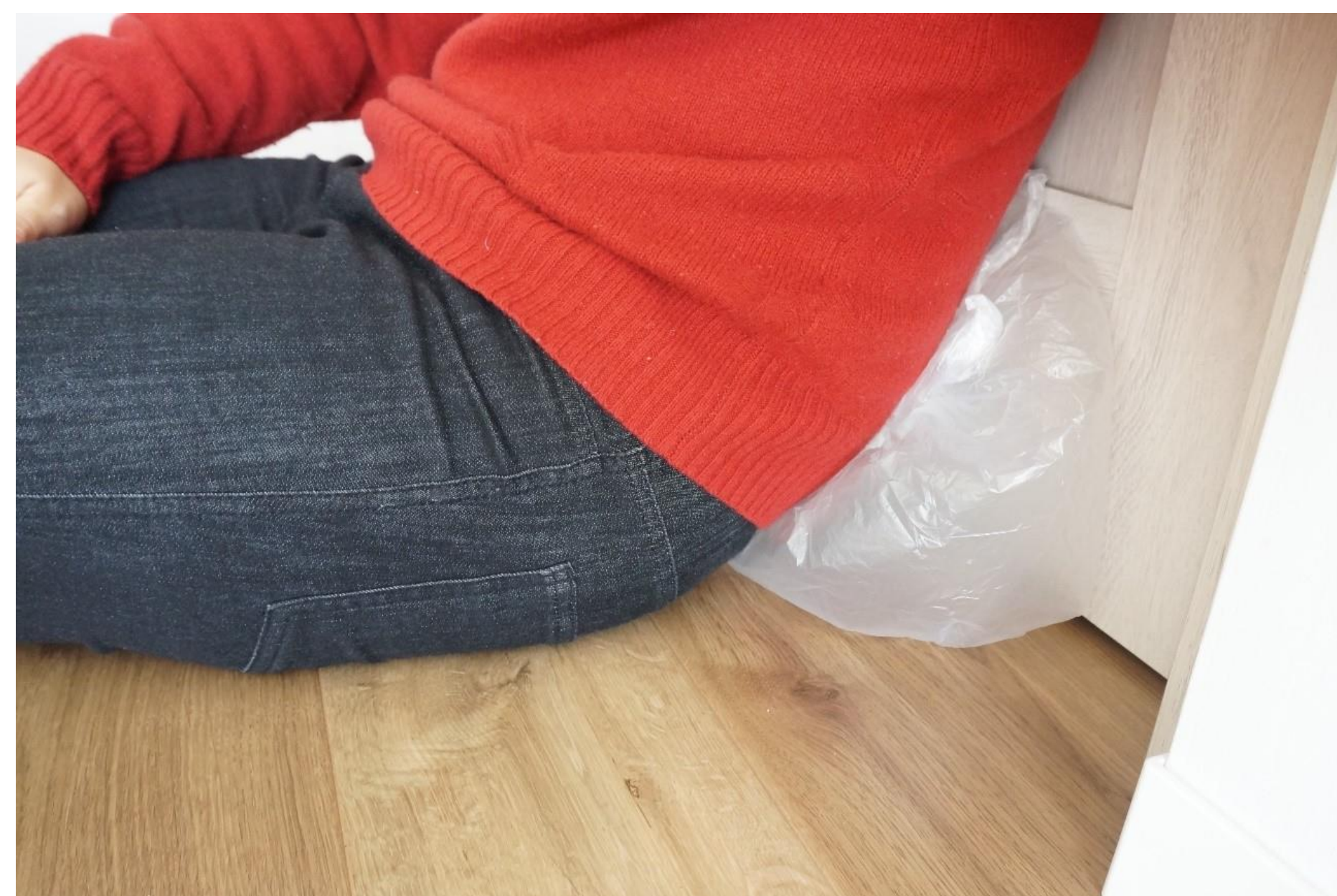


⑥土台の真ん中に、段ボールを差し込んだら出来上がり

簡易クッション



ポリ袋 (ポリ袋を縛る) ひもや輪ゴム



簡易クッションで腰の負担を軽減

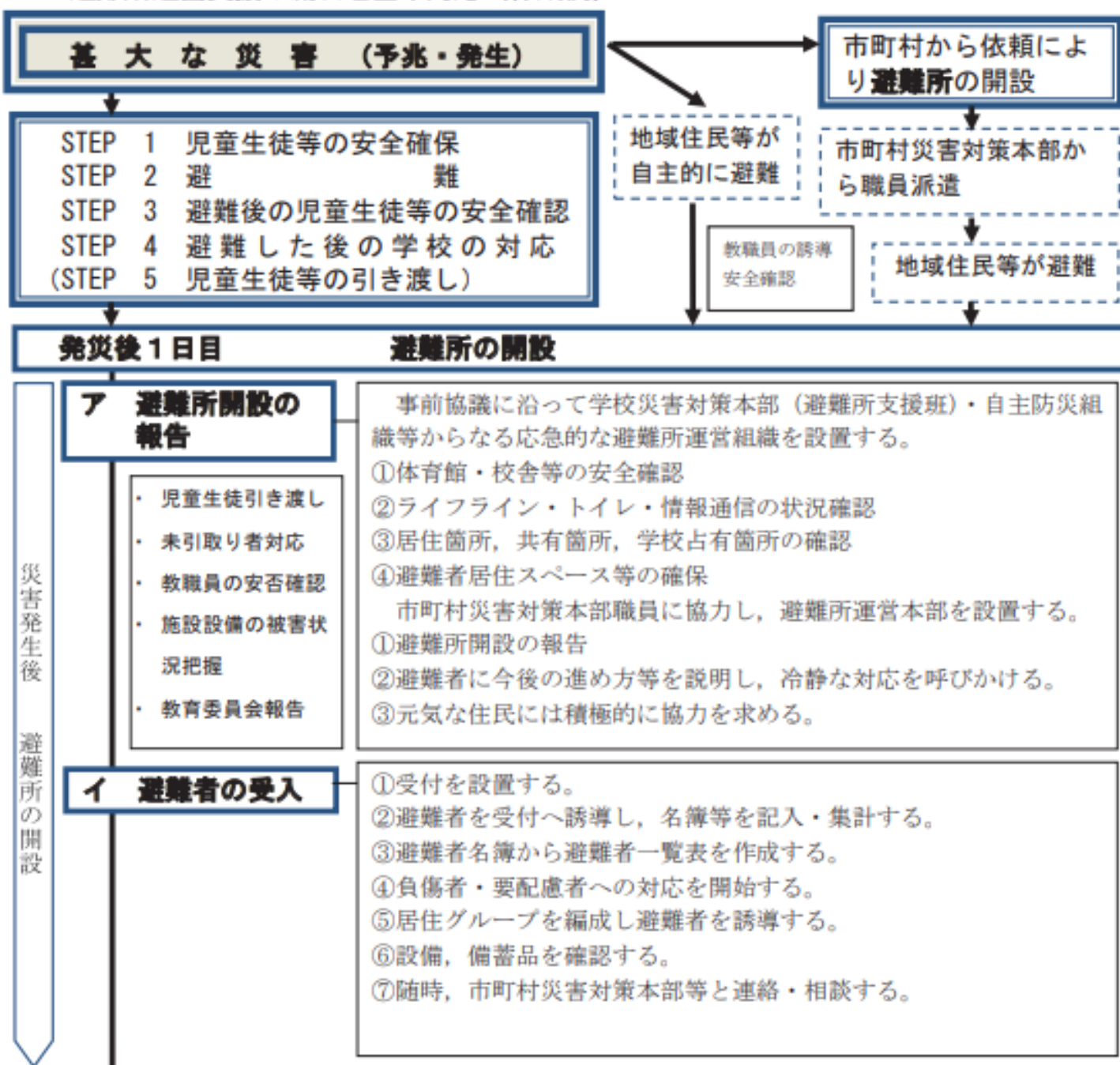


避難所開設時に必要な物は？



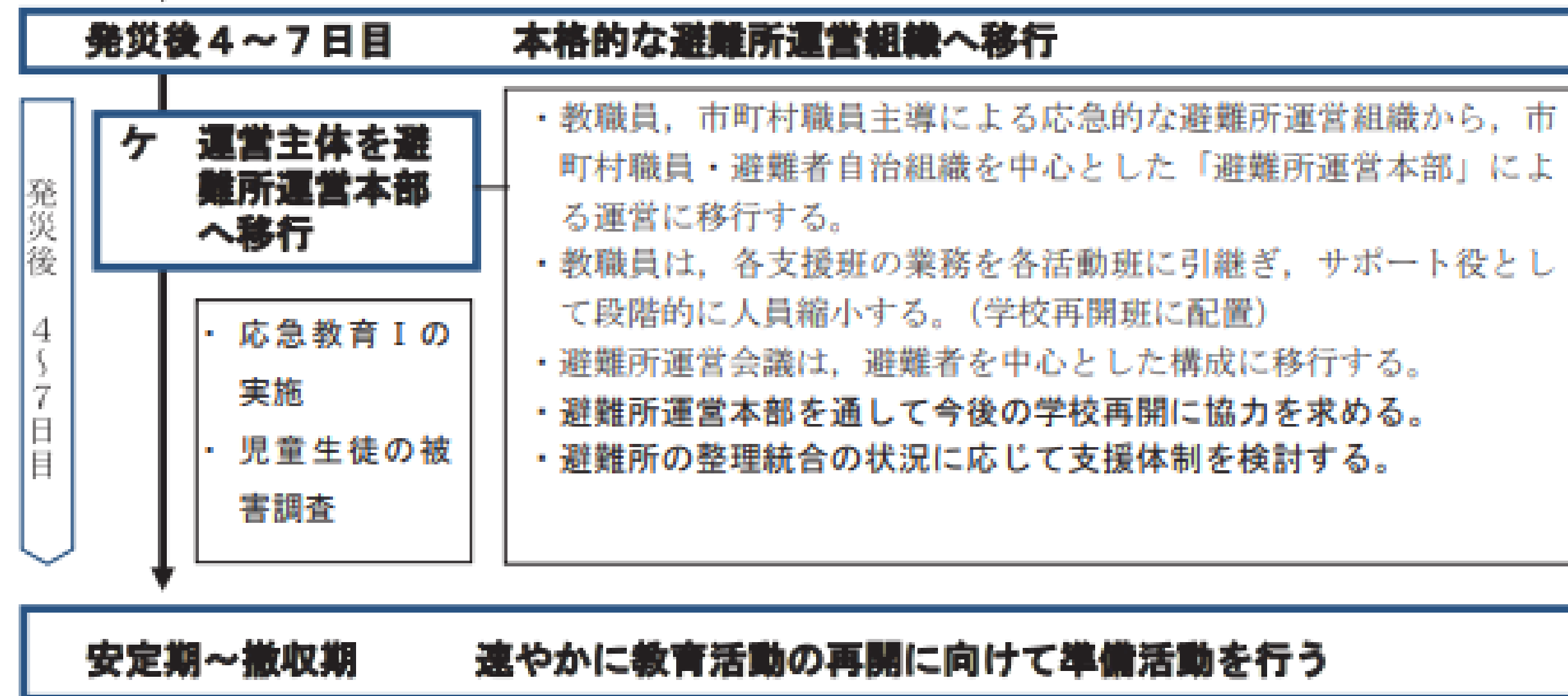
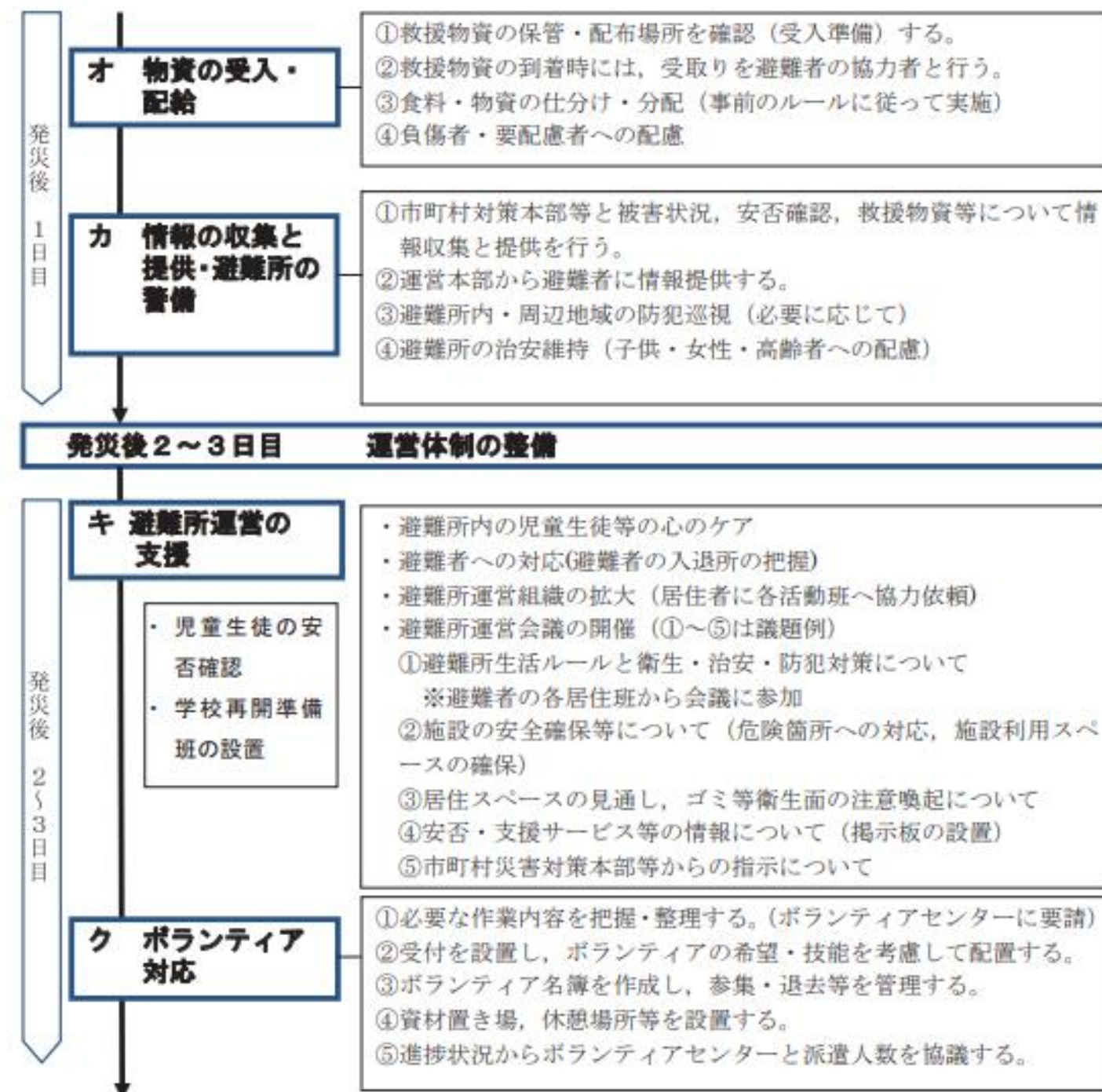
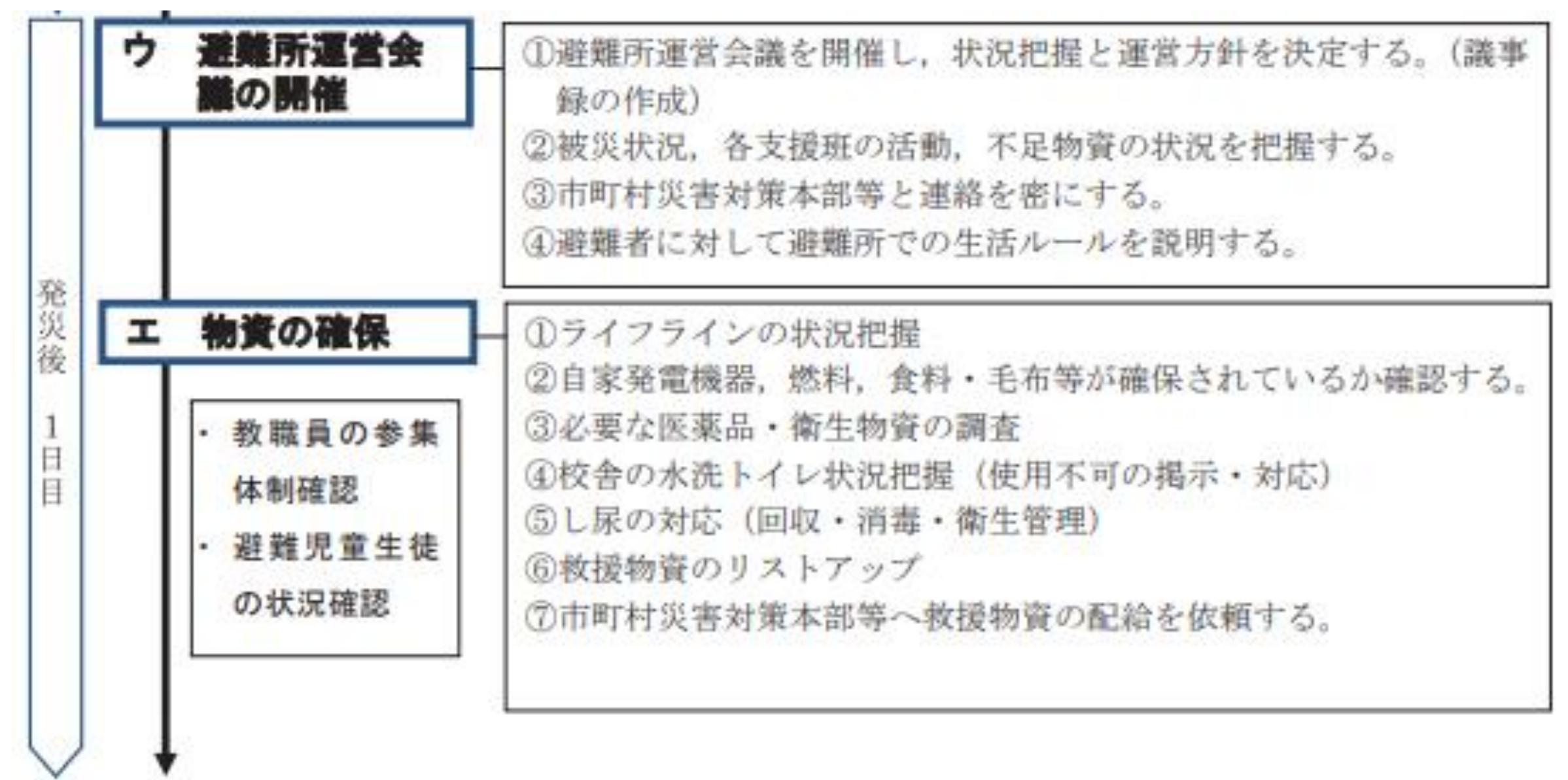
避難者自身が自分で作り、自分の場所の確保を！

1 避難所運営支援の流れと基本対応 (作成例)



徳島県教育委員会 H28

災害時における  
学校避難所運営支援計画  
作成の手引きより



## 参考資料

○「学校に避難所が開設された場合を想定して  
～発災当日の流れを中心に～」(兵庫県教育委員会)

○令和2年6月「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営  
ガイドライン資料集」  
(宮城県)

○「くらしの中に 防災日本」  
<https://www.bosai.yomiuri.co.jp/article/1651>

○平成28年「災害時における学校避難所運営支援計画作成の手引き」(徳島県教育委員会)より

# 学校危機管理の現状と課題 Bグループ

テーマ：事後対応—心のケア、学習支援

## 1.場面設定

- ・ 1ヵ月前に記録的な大雨が発生
- ・ 山の麓に位置している本校では周囲で土砂崩れが発生
- ・ 学区内の住居や家屋が巻き込まれ多くの人  
が亡くなった
- ・ 児童の中にはショックを受けていたり落ち込んでいたりする様子が見られる

## 2.単元名

○第5学年 特別活動

「心の健康について考えよう」（計2時間）

### 【学級活動】

- (2) 日常生活や学習への適応及び生活の向上  
カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

## 3.本時のねらい

- ストレスを感じると心に変化が生じることとそれに対してできることを知り、自分たちにできることを考えることができる。

## 4.本時の展開（2/2時間目）

### 【現状の把握】

- ゲストティーチャーの話聞き、ストレスによって心に変化が生じることを知る。
- ・ 災害等の影響により心にストレスがかかる  
→誰にでも起こることだということを知る
  - ・ ストレスの結果、起こる反応を知る  
→自分自身が気付かない変化に気付く機会

## 4.本時の展開

### 【自分たちでの取り組み】

- ストレスを解消するために自分ができることについて考える。【個→グループ→全体】
- ・ 自分にかかるストレス、他者にかかるストレスを解消する方法を選んで考える
  - ・ グループを前時での子どもたちへの調査を基に編成する

## 4.本時の展開

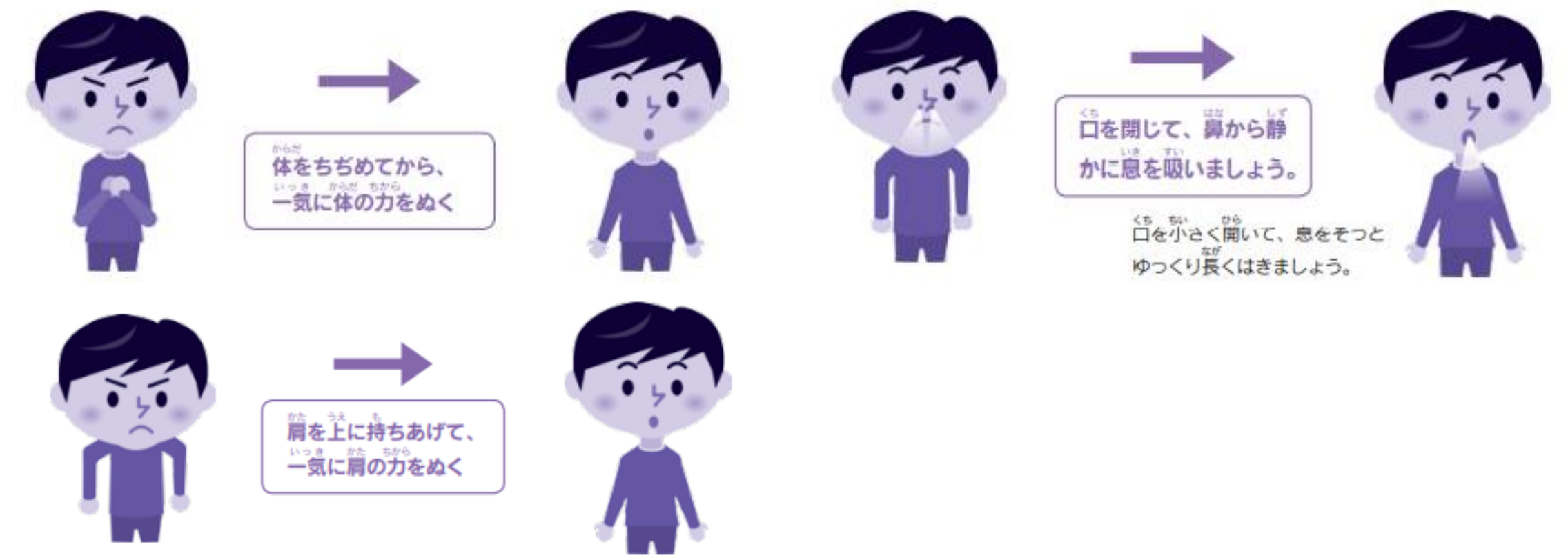
### 【自分たちでの取り組み】

○ゲストティーチャーの指導の下、セルフ・リラクゼーションを実際にやってみる。

- ・筋弛緩法や呼吸法などを実際に行う  
→心の変化を感じ取る
- ・感じたことをペアや全体で共有

## 4.本時の展開

体が楽になると、心も楽になる



友達や、おうちの方に後ろから肩を持ち上げてもらい、ぱつと離してもらう方法もあるよ  
肩をさわられてイヤな人はやってもらわなくても良い

「学校における子供の心のケアーサインを見逃さないためにー」  
文部科学省、平成26年3月 より引用

## 4.本時の展開

### 【相談する】

○ゲストティーチャーから自分たちでできる取り組み以外のことについて知る。

- ・ストレスを自分たちだけでは解消できない時  
→相談できる人や機関があることを知る

◎全体を通して自他のストレスによる心の変化に対応ができるようにし、本時以降の行動の**見通し**がもてるようにする

## 学校危機管理の現状と課題 Bグループ

テーマ：事後対応ー心のケア、学習支援

FIN



災害発生後対応  
教職員向け研修プログラム

# 心のケア

がっこチーム



## 場面設定

記録的な大雨  
学区内で土砂崩れ  
住居家屋倒壊  
身内でなくなった方も



## 研修・授業の流れ

短

### 【研修】

- ①避難所開設直後 **短期的な視点**
- ②学校再開直前 **長期的な視点**

### 【授業】

- ①、②の研修を受けて



### 【研修】①避難所開設直後



所属校が避難所になっている場合、  
避難所スタッフとしての対応が求められる

短

ねらい:災害直後、避難所における実践的な手当  
(緊急下における対応)について学ぶ

研修内容: 子どものための心理的応急措置(PFA)の共有



所属校児童+避難所にいる地域の子ども

講師:災害派遣精神医療チーム職員

研修対象:避難所スタッフ(教職員を含む)



出典「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」パンフレット



## 緊急下における対応

短

- 1) 緊急時のこころの反応について
- 2) どのように支えるか(「準備・見る・聴く・つなぐ」の行動原則 等)



- 3) 質疑応答

出典「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」パンフレット



## 【研修】②学校再開直前

- 学校再開直前の3日間の実施
- 各回60分の想定
- 講話と演習の組み合わせ

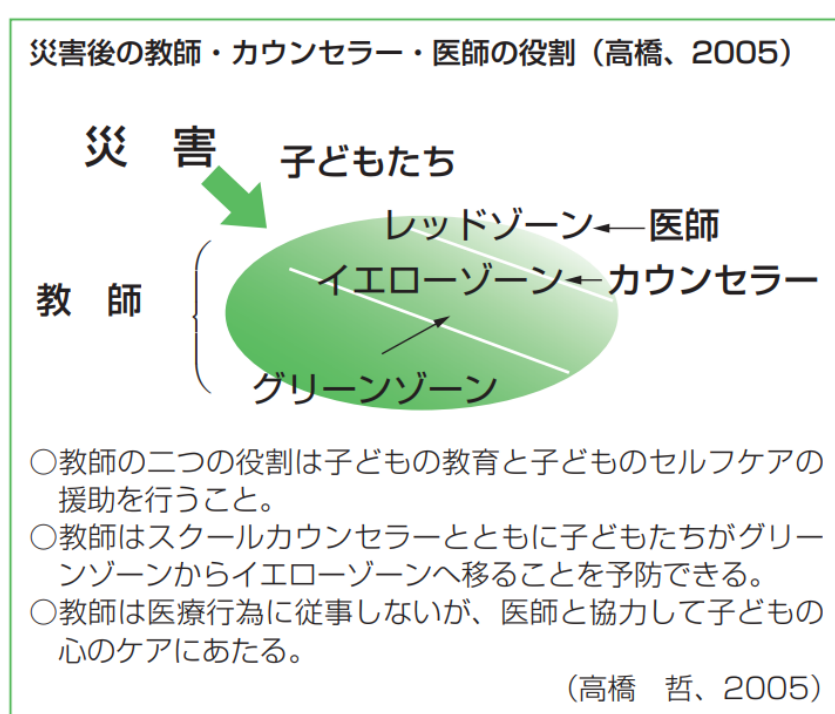
【1日目】「カウンセラーによる支援」

【2日目】「健康チェック等」

【3日目】「アニバーサリー反応への対応」

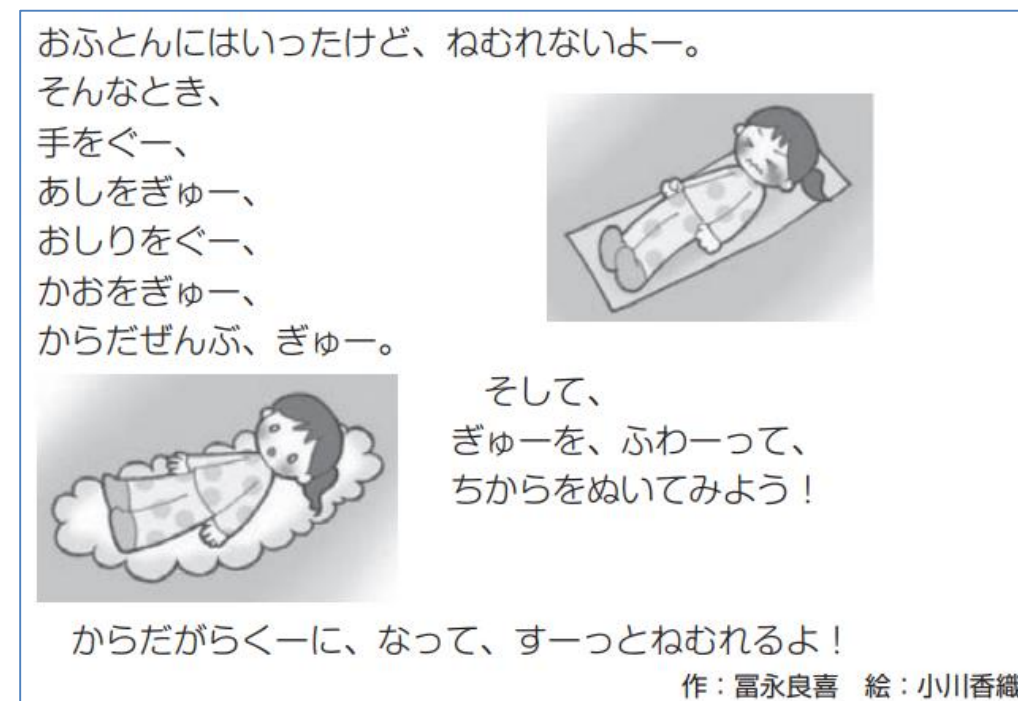
### 【1日目】「カウンセラーによる支援」

- 講話  
「災害後におけるスクールカウンセラーの役割」  
本校スクールカウンセラー〇〇〇〇



### 【1日目】「カウンセラーによる支援」

- 演習「教師ができる心のケアについて」  
本校スクールカウンセラー〇〇〇〇  
→リラクゼーションなどのストレスマネジメント  
体験



### 【2日目】「健康チェック等」

- 講話  
「心のケアのポイント」  
学校医（精神科）〇〇〇〇

【心的外傷後ストレス障がい（PTSD）の主な症状】

- ア 再体験  
原因となった出来事が、フラッシュバックによって思い出されたり、夢に繰り返し登場したりすること。また、出来事を思い出した時に動悸がしたり、冷や汗をかいたりするといった身体症状も現れる。
- イ 回避  
原因となった出来事について、考える事や感情がわき起こることを避けようとする事。  
出来事について話そうとしない。また、出来事の一部を思い出せなくなることもある。
- ウ 覚醒昂進症状（かくせいこうしんしょうじょう）  
睡眠障がい、イライラしがち、怒りっぽい、集中困難、過度に警戒心を抱く、刺激に対する過剰反応。

このような症状が1ヶ月以上続き、日常生活に障がいが生じている時、心的外傷後ストレス障がい（PTSD）と診断される。

### 【2日目】「健康チェック等」

- 演習「学校再開後の学級経営について」  
→学級経営の方針について、優先順位や共通理解  
すべきことの確認 ※学年主任を中心に

- ☆ まず身体のケアをしてから心のケアを行う。
- ☆ 親近感が大切、自然な形で話せるよう雰囲気づくりをする。
- ☆ 発達段階に応じた優しさと思いやりで安心感・安全感を与える。
- ☆ ストレス反応が激しい時は専門家へつなぐ。（相談を勧める）
- ☆ 子どもたちのセルフケアをサポートするというスタンスで行う。
- ☆ 傾聴を心がける。

## 【3日目】「アニバーサリー反応への対応」

長

- 講話  
「アニバーサリー反応への対応について」  
臨床心理士〇〇〇〇

### アニバーサリー反応

大きな出来事を経験した後、  
節目の時期に、心身の状態が不安定になる現象

- 大災害
- 事件・事故
- 身近な方との死別

誰にでも起こりうる、自然な反応です

## 【3日目】「アニバーサリー反応への対応」

長

- 演習  
「今後の防災教育の在り方とは」  
生徒指導主事〇〇〇〇  
→心のケアの観点から、避難訓練や防災学習、今後の学習はどのように実施すべきか  
※小グループでの意見交換

- ☆ 被災地での心のケアの観点のない避難訓練や防災学習は、子どもに二次被害を与える。
- ☆ 被災地での心のケアの観点を取り入れた避難訓練や防災学習は、ストレス障がいリスクを減じ、成長を促す。

## 参考資料

- 「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」リーフレット
- 「大規模災害発生時における学校再開と心のケアハンドブック」熊本県教育委員会
- Web : [節目の時期に起りやすいアニバーサリー反応 | 公認心理師が対処法を解説 | はたよく | はたらくをよくする®メディア by PEACEMIND | note](#)